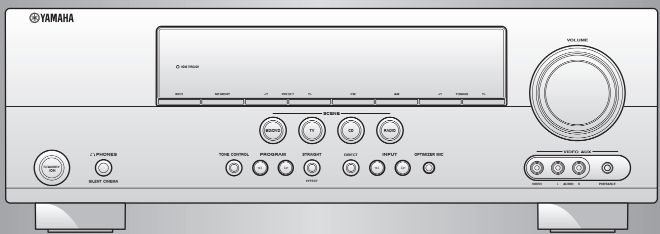
J

YAMAHA

AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

AX-V565



取扱説明書

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

⚠ 警告　この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

⚠ 注意　この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。

本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。

工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

もくじ

はじめに

本機の特長

■ 高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプ
- 定格出力（6Ω、1 kHz、0.9% THD）
- フロント：90 W + 90 W
- センター：90 W
- サラウンド：90 W + 90 W
- サラウンドバック：90 W + 90 W

■ スピーカー / プリアウト出力
- スピーカー端子（7 チャンネル）、プリアウト端子（サブウーファー）

■ 入出力端子

入力端子
- HDMI 入力× 4
- オーディオ / ビデオ入力
  [オーディオ] 同軸デジタル端子× 2、光デジタル端子× 2、アナログ端子× 2
  [ビデオ]D4 ビデオ / コンポーネントビデオ端子× 2、コンポジット端子× 4
- オーディオ入力（アナログ端子）× 2
- DOCK 入力× 1
- V-AUX 入力
  [オーディオ] アナログ端子× 1、ステレオミニジャック× 1
  [ビデオ] コンポジットビデオ× 1

出力端子
- モニター出力
  [オーディオ / ビデオ]HDMI × 1
  [ビデオ]D4 ビデオ / コンポーネントビデオ× 1、コンポジット× 1
- オーディオ / ビデオ出力
  [オーディオ] アナログ端子× 1
  [ビデオ] コンポジット端子× 1
- オーディオ出力（アナログ端子）× 1

■ ヤマハ独自の音場技術
- CINEMA DSP
- コンプレストミュージック・エンハンサー
- バーチャルシネマ DSP
- サイレントシネマ

■ 多彩なデコーダー
- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
- Dolby Digital / Dolby Digital EX
- DTS、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1
- Dolby Pro Logic / Dolby Pro Logic II / Dolby Pro Logic IIx
- DTS NEO:6
- AAC
- DSD

■ 高機能 FM/AM チューナー
- 40 局まで登録可能なプリセット選局
- オートチューニング選局

■ HDMI™ (High-Definition Multimedia Interface)
- フルハイビジョン映像をマルチチャンネルデジタル音声と一緒に楽しめる HDMI インターフェース
  – 映像と音声のずれ補正機能（リップシンク）
  – Deep Color 映像信号（30/36bit）対応
  – x.v.Color™ 映像信号対応
  – ハイビジョン映像対応
  – 高品質デジタル音声フォーマット対応
- アナログ映像入力信号を HDMI デジタル映像信号へ変換してモニター出力できるビデオコンバージョン機能（コンポジットビデオ→ HDMI、コンポーネントビデオ /D 端子→ HDMI）
- アナログ映像入力を HDMI デジタル映像として出力する際の解像度変換機能（480i または 480p → 720p または 1080i、1080p）

■ DOCK 端子
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（別売 YDS-11 など）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売YBA-10など）を接続できるDOCK端子を装備

■ スピーカー自動設定機能
- 視聴空間自動最適化システム「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）

■ その他
- 192kHz、24bit の DA コンバーター
- 各種設定をモニターで確認しながら変更できるオンスクリーンディスプレイ（OSD）表示機能
- すべてのソースを高音質で再生できるダイレクトモード
- 小音量で再生したときでも聞きやすい音量 / ダイナミックレンジの連動機能（Adaptive DRC）
- 入力ソースや音場プログラムなどを一括切り替えできるシーン機能
- スリープタイマー

本書について

本書の記載について

- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「ⒶSTANDBY/ON」や「⑦HDMI1」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、本書の「各部の名称と機能」または別紙「操作パネル図」をご覧ください。
- ☀ は、知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- ☞ は、関連情報が記載されているページを表しています。

DOLBY TRUE HD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 ᗡᗞ は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts-HD Master Audio

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。

AAC

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170

5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

iPod ™

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth は、Bluetooth SIG の登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

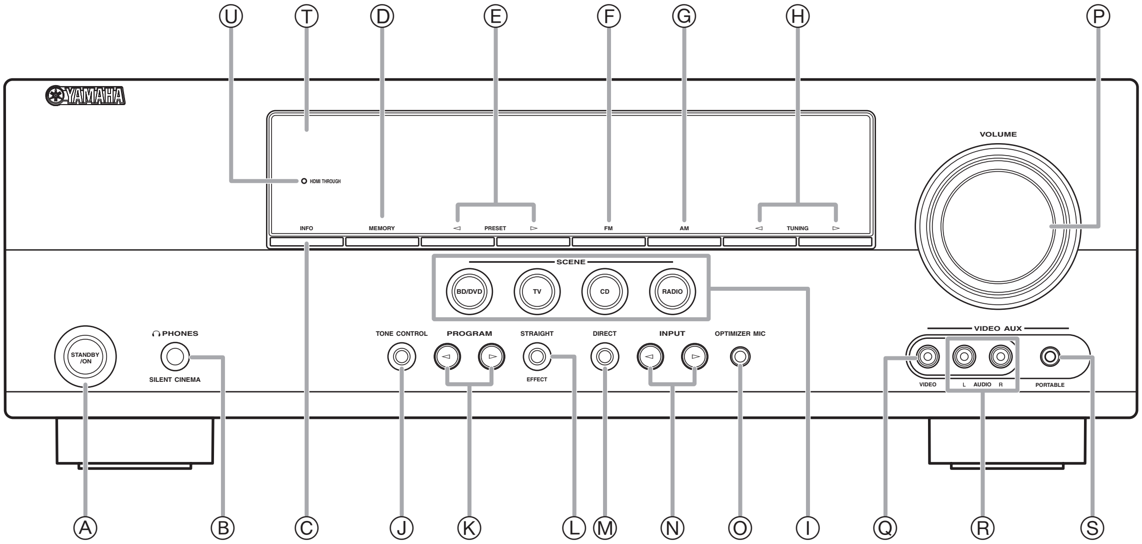
付属品を確認する

同梱されている付属品をご確認ください。

- リモコン
- 単 4 乾電池（2 本）
- オプティマイザーマイク
- AM ループアンテナ
- FM 簡易アンテナ

各部の名称と機能

フロントパネル



Ⓐ **STANDBY/ON（スタンバイ / オン）**
本機のスタンバイ / オンを切り替えます（21 ページ）。

Ⓑ **PHONES（フォーンズ）端子**
ヘッドフォンを接続します（26 ページ）。

Ⓒ **INFO（インフォ）**
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます（27 ページ）。

Ⓓ **MEMORY（メモリー）**
FM/AM 放送局をプリセット局として登録します（33 ページ）。

Ⓔ **PRESET◁ / ▷（プリセット）**
プリセットした FM/AM 放送局を選択します（33 ページ）。

Ⓕ **FM**
FM/AM チューナーのバンドを FM に切り替えます（32 ページ）。

Ⓖ **AM**
FM/AM チューナーのバンドを AM に切り替えます（32 ページ）。

Ⓗ **TUNING ◁ / ▷（チューニング）**
FM/AM チューナーの周波数を増減させます（32 ページ）。

Ⓘ **SCENE（シーン）**
入力ソースや音場プログラムを一括して切り替えます（25 ページ）。

Ⓙ **TONE CONTROL（トーン コントロール）**
スピーカー / ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します（26 ページ）。

Ⓚ **PROGRAM◁ / ▷（プログラム）**
音場プログラムを切り替えます（28 ページ）。

Ⓛ **STRAIGHT（ストレート）**
音場プログラムをストレートデコードモードに切り替えます（31 ページ）。

Ⓜ **DIRECT（ダイレクト）**
音場プログラムをダイレクトモードに切り替えます（26 ページ）。

Ⓝ **INPUT◁ / ▷（インプット）**
入力ソースを選択します（25 ページ）。

Ⓞ **OPTIMIZER MIC（オプティマイザー マイク）端子**
付属のオプティマイザーマイクを接続して、スピーカーの出力特性を調整します（22 ページ）。

Ⓟ **VOLUME（ボリューム）コントロール**
本機の音量を調節します（25 ページ）。

Ⓠ **VIDEO（ビデオ）端子（VIDEO AUX）**
ビデオカメラやゲーム機のビデオ出力端子を接続します（20 ページ）。

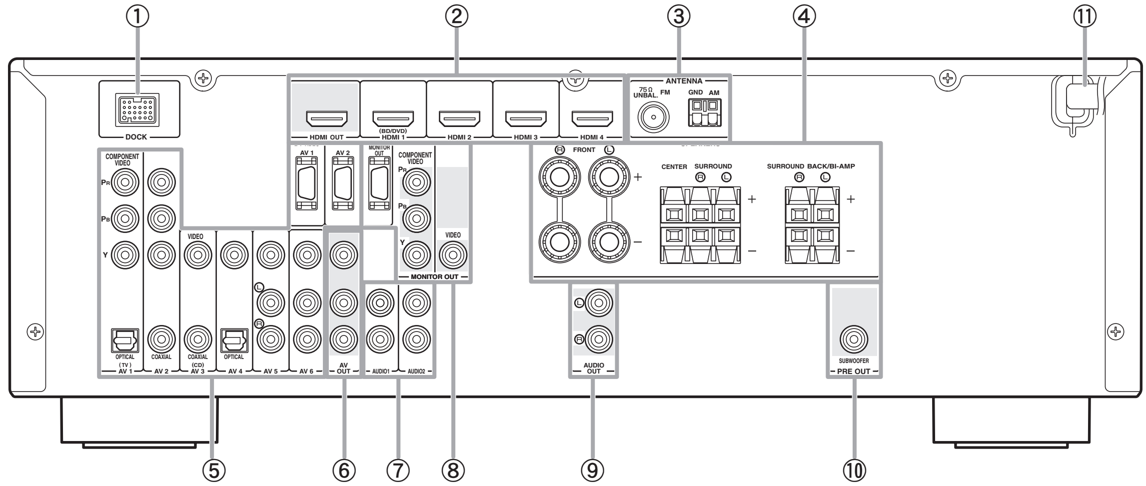
Ⓡ **AUDIO（オーディオ）L/R 端子（VIDEO AUX）**
ビデオカメラやゲーム機のオーディオ出力端子を接続します（20 ページ）。

Ⓢ **PORTABLE（ポータブル）端子（VIDEO AUX）**
携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ出力端子を接続します（20 ページ）。

Ⓣ **フロントパネルディスプレイ**
本機の各種情報が表示されます（10 ページ）。

Ⓤ **HDMITHROUGH（HDMI スルー）**
本機がスタンバイ状態の場合、下記のいずれかの動作をすると点灯します。
– HDMI コントロール機能が有効な場合（47 ページ）
– 本機に入力されたHDMI信号が、本機を経由してスルー出力されている場合（47 ページ）

リアパネル



① **DOCK（ドック）端子**
別売のヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（YDS-11）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）を接続します（20 ページ）。

② **HDMI OUT（HDMI アウト）/ HDMI1-4**
HDMI 対応のモニター機器を接続したり、HDMI 入力 1 〜 4 に入力する外部機器を接続します（19 ページ）。

③ **アンテナ端子**
付属のFMアンテナおよびAMアンテナを接続します（21 ページ）。

④ **スピーカー端子**
フロント L/R、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを接続します（15 ページ）。

⑤ **AV1-6**
AV 入力 1 〜 6 に入力する外部機器を接続します（19 ページ）。

⑥ **AV OUT（AV アウト）**
選択されているアナログ入力ソースの映像/音声信号を外部に出力します（20 ページ）。

⑦ **AUDIO（オーディオ）1/2**
AUDIO 入力 1 〜 2 へ入力する外部機器を接続します（20 ページ）。

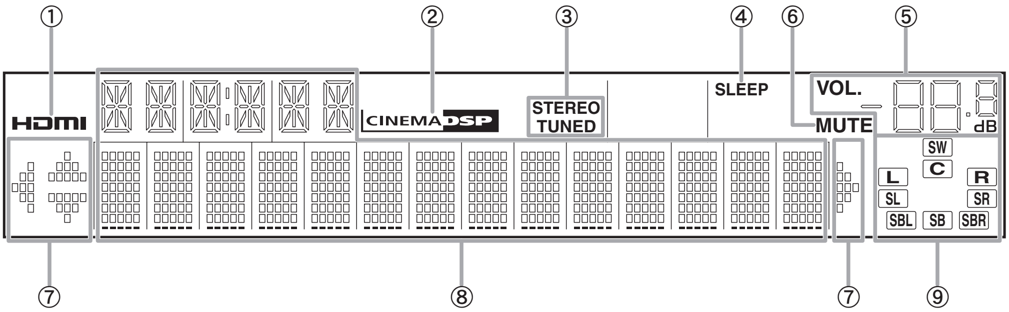
⑧ **MONITOR OUT（モニター アウト）**
本機の映像信号をテレビなどのモニター機器へ出力します（18 ページ）。

⑨ **AUDIO OUT（オーディオ アウト）**
選択したアナログ入力ソースの音声を外部に出力します（20 ページ）。

⑩ **PRE OUT（プリ アウト）**
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します（15 ページ）。

⑪ **電源コード**
コンセントに接続します（21 ページ）。

フロントパネルディスプレイ



① **HDMI インジケーター**
入力ソースとして HDMI を選択したとき、正常に送受信が行われていると点灯します。

② **CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター**
CINEMA DSP 系の音場プログラムを選択すると点灯します。

③ **チューナーインジケーター**
FM/AM 放送の受信時に点灯します（32 ページ）。

④ **SLEEP（スリープ）インジケーター**
スリープタイマーが動作しているときに点灯します（37 ページ）。

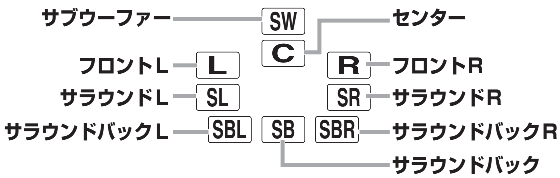
⑤ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**
音量の設定値を表示します。

⑥ **MUTE（ミュート）インジケーター**
音声を消音しているときに点滅します。

⑦ **カーソルインジケーター**
リモコンの ⑭ **カーソル** △/▽/◁/▷ を操作可能な場合に、キーに対応するインジケーターが点灯します。

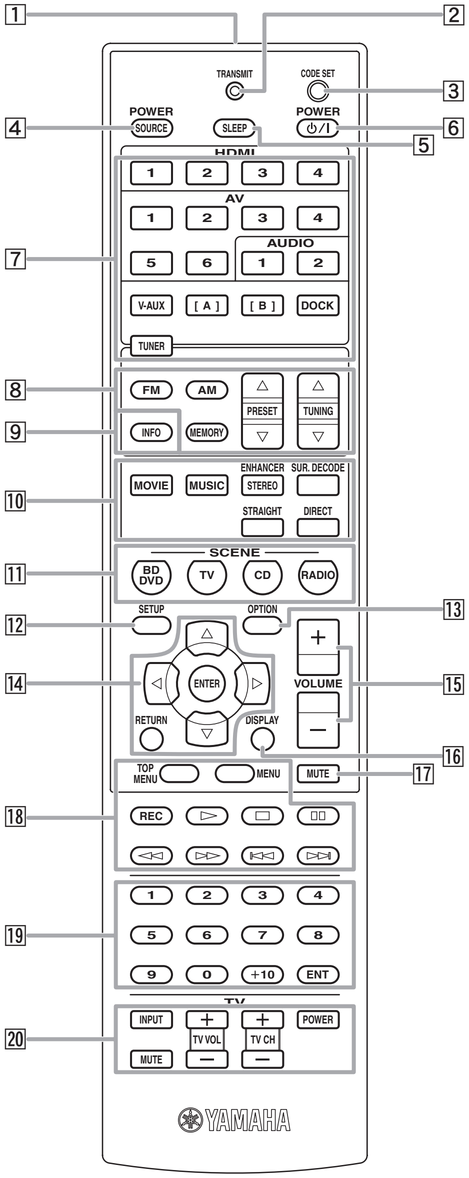
⑧ **マルチインフォメーションディスプレイ**
本機の動作に応じて、設定メニューの項目や設定値が表示されます。

⑨ **スピーカーインジケーター**
現在信号を出力しているスピーカー端子を表示します。



はじめに

リモコン



1 **リモコン信号送信部**
赤外線を送信します。

2 **TRANSMIT（トランスミット）**
リモコンから信号を送信した場合に点灯します。

3 **CODE SET（コード セット）**
外部機器操作用のリモコンコードを設定します（50 ページ）。

4 **SOURCE POWER（ソース パワー）**
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

5 **SLEEP（スリープ）**
スリープタイマーの動作を切り替えます（37 ページ）。

6 **POWER（パワー）**
本機のオン / スタンバイを切り替えます。

7 **入力ソース選択キー**

HDMI1-4	HDMI 入力 1 ～ 4 を選択します。
AV1-6	AV 入力 1 ～ 6 を選択します。
AUDIO1/2	AUDIO 入力 1 ～ 2 を選択します。
V-AUX	本体前面の V-AUX 端子を選択します。
[A]/[B]	本機の操作とは関係なく、18 **外部機器操作キー**を使って外部機器を操作します（50 ページ）。
DOCK（ドック）	DOCK 端子に接続したヤマハ製の iPod ユニバーサルドック / Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選択します。
TUNER	FM/AM チューナーを選択します。

8 **チューナーキー**

FM **AM**	FM/AM のバンドを切り替えます。
MEMORY（メモリー）	放送局をプリセット登録します。
PRESET△ / ▽（プリセット）	登録されたプリセット局を呼び出します。
TUNING △ / ▽（チューニング）	チューナーの周波数を増減させます。

9 **INFO（インフォ）**
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます（27 ページ）。

10 **音場プログラム選択キー**
音場プログラムを選択します（26、28 ページ）。

11 **SCENE（シーン）キー**
入力ソースや音場プログラムを一括して切り替えます（25 ページ）。

12 **SETUP（セットアップ）**
セットアップメニューを表示します（44 ページ）。

13 **OPTION（オプション）**
オプションメニューを表示します（38 ページ）。

14 **カーソル △/▽/◁/▷、ENTER（エンター）、RETURN（リターン）**

カーソル △/▽/◁/▷	フロントパネルディスプレイやモニターに表示される各種メニューで項目を選択したり、設定値を変更します。
ENTER	選択された項目を決定します。
RETURN	1 つ手前のメニュー表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

15 **VOLUME（ボリューム）+/–**
本機の音量を調節します（25 ページ）。

16 **DISPLAY（ディスプレイ）**
ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続した場合に、iPod の操作モードを切り替えます（34 ページ）。

17 **MUTE（ミュート）**
音声出力の消音 / 消音解除を切り替えます（26 ページ）。

18 **外部機器操作キー**
外部機器の録画や再生などの操作を行います（50 ページ）。

19 **数字キー**
数値入力を行います。

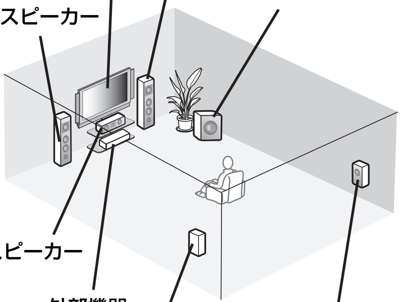
20 **TV 操作キー**
テレビやプロジェクターなどのモニター機器を操作します。

クイックスタートガイド

本機をご使用になるには、最初に以下のステップでセットアップを行います。それぞれの詳しい操作 / 設定については、各ステップに対応するページをご覧ください。

ステップ 1：接続に必要なものを準備する

スピーカー、DVD プレーヤーなどの再生装置、各種ケーブルなど、セットアップに必要なものを用意します。
たとえば 5.1 チャンネルのサラウンドシステムをセットアップする場合は、下記のものをご用意ください。



品名		数量
スピーカー	フロントスピーカー	2
	センタースピーカー	1
	サラウンドスピーカー	2
アンプ内蔵サブウーファー		1
スピーカーケーブル		5
サブウーファーケーブル		1
DVD プレーヤーなどの再生機器		1
TV などのモニター機器		1
ビデオケーブルまたは HDMI ケーブル		2
オーディオケーブル		2

- スピーカーは 2 本（フロント用）以上ご用意ください。フロント用以外のスピーカーは以下の順番で優先的にご用意ください。
  1サラウンドスピーカー（2 本）
  2センタースピーカー（1 本）
  3サラウンドバックスピーカー（1 本または 2 本）
- ブラウン管タイプのモニター機器を使用する場合は、防磁型のスピーカーをご使用になることをお勧めします。

ステップ 2：スピーカーを設置 / 接続する

スピーカーをリスニングルームに設置して、本機と接続します。

- スピーカーを設置する ☞14 ページ
- スピーカーを接続する ☞15 ページ

- 本機には、視聴環境の特性（スピーカーのオーディオ特性や配置、リスニングルームの音響など）を計測して自動的に最適化する「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。YPAO を使用すれば、特別な知識を必要とせずにバランスのよい適切なサウンドが得られます。詳しくは 22 ページをご覧ください。

ステップ 3：外部機器を接続する

TV などのモニター機器や DVD プレーヤーなどの外部機器を接続します。

- モニター機器を接続する ☞18 ページ
- DVD プレーヤーなどの外部機器を接続する ☞19 ページ
- ヤマハ製iPodユニバーサルドックやBluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続する ☞20 ページ
- FM/AM アンテナを接続する ☞21 ページ

ステップ 4：電源をオンにする

電源ケーブルを接続して、本機の電源を入れます。

- 電源ケーブルを接続する ☞21 ページ
- 本機の電源をオン / オフする ☞21 ページ

ステップ 5：入力ソースを選択して再生する

ステップ3で接続した機器を入力ソースとして選び、再生を行います。

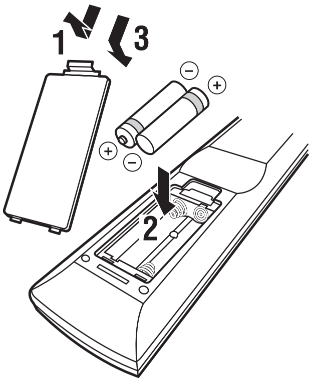
- 再生の基本操作 ☞25 ページ
- 音場プログラムを楽しむ ☞28 ページ

- 本機は、入力ソースや音場プログラムなどを一括して切り替えできる「シーン機能」に対応しています。ブルーレイディスク /DVD 用、CD 用など、目的に合わせて 4 つのシーンがプリセットされており、リモコンのキー 1 つで操作できます。詳しくは 25 ページをご覧ください。

準備

リモコンの準備

リモコンに乾電池を入れる



1 **リモコンの電池カバーを取りはずす。**

2 **付属の単 4 乾電池（2 本）を、プラス / マイナスの表示に合わせて電池ケースに入れる。**

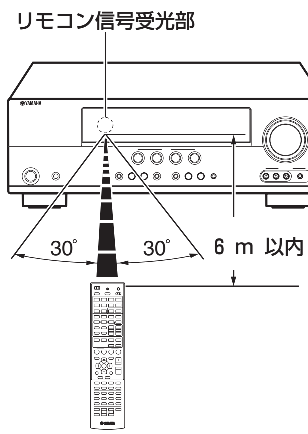
3 **電池カバーを元に戻す。**

ご注意

- 以下の場合はすべての乾電池を新しいものに交換してください。
  – リモコンの操作範囲がせまくなった
  – トランスミットインジケーターが光らない、または光が弱くなった
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れたりすることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものありますのでご注意ください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池を外したまましばらく（2分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

リモコンを使う

本機のリモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体のリモコン信号受光部に向けて、正しく操作してください。



ご注意

- リモコンに水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- リモコンを下記のような場所には置かないでください。
  – 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  – 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  – 極端に寒いところ
  – ほこりの多いところ

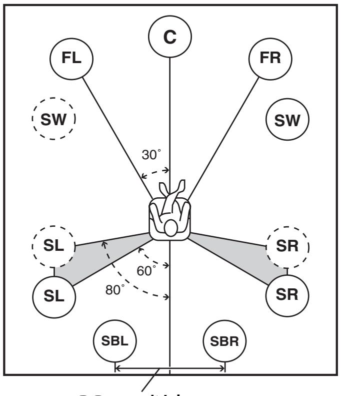
- リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンで外部機器を操作できます。詳しくは 50 ページをご覧ください。

接続する

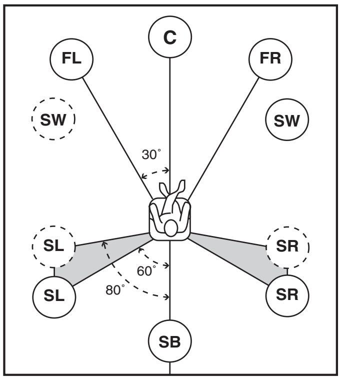
スピーカーを設置する

本機は、最大 7.1 チャンネルのサラウンドに対応しています。最適なサラウンド効果が得られるよう、下図のようなスピーカー配置をおすすめします。

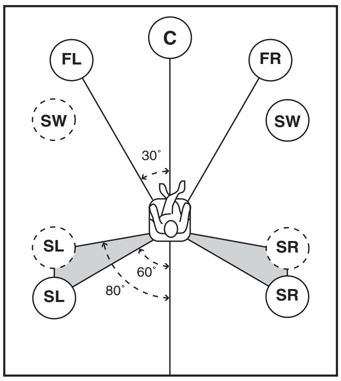
7.1 チャンネル構成の場合



6.1 チャンネル構成の場合



5.1 チャンネル構成の場合



スピーカーのチャンネルについて

■ フロント L/R スピーカー（FL / FR）

フロントチャンネルの音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。リスニングルーム前方に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適当です。

■ センタースピーカー（C）

会話やボーカルなど、画面中央に定位する音を出力します。フロント L/R スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

■ サラウンド L/R スピーカー（SL / SR）

サラウンド音と効果音を出力します。リスニングルーム左右後方に、リスニングポジションに向けて設置します。

5.1 チャンネル構成で使用する場合は、自然な音のつながりが得られるよう、7.1 チャンネル構成よりもやや後方にスピーカーを設置します。

■ サラウンドバック L/R スピーカー（SBL / SBR）/ サラウンドバックスピーカー（SB）

後方の効果音を出力します。サラウンドバックスピーカーは、リスニングルーム後方にリスニングポジションに向けて設置します。左右のスピーカーは 30cm 以上間隔を開けて設置してください。フロント L/R スピーカーと同じ間隔が理想的です。

6.1 チャンネル構成で使用する場合は、サラウンドバックの左右の音声がダウンミックスされ 1 つのスピーカーから出力されます。

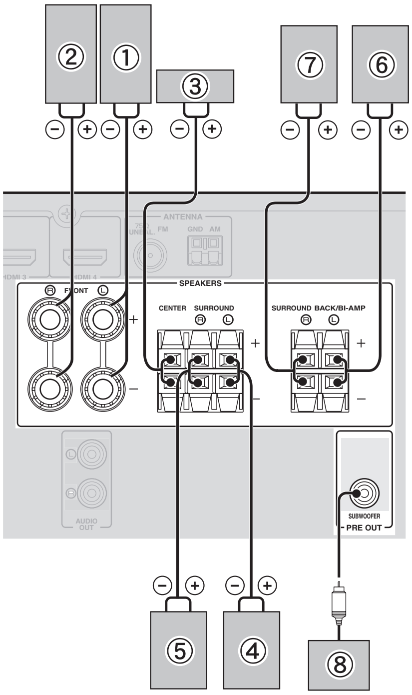
5.1チャンネル構成で使用する場合、サラウンドバックの左右の音声は、サラウンドスピーカーに振り分けられて出力されます。

■ サブウーファー（SW）

Dolby Digital、DTS、AAC 信号に含まれる LFE（低域効果音）や低音を出力します。ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファーをお使いください。リスニングルーム前方のフロント L/R スピーカーの外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

スピーカーを接続する

スピーカーを接続する際は、ご使用になる構成にあわせて次のように端子とスピーカーを接続してください。



■ 7.1 チャンネル構成の場合

スピーカー	本機の端子
① フロントスピーカー L	FRONT（L）
② フロントスピーカー R	FRONT（R）
③ センタースピーカー	CENTER
④ サラウンドスピーカー L	SURROUND（L）
⑤ サラウンドスピーカー R	SURROUND（R）
⑥ サラウンドバックスピーカー L	SURROUND BACK/BI-AMP（L）
⑦ サラウンドバックスピーカー R	SURROUND BACK/BI-AMP（R）
⑧ サブウーファー	SUBWOOFER

■ 6.1 チャンネル構成の場合

スピーカー	本機の端子
① フロントスピーカー L	FRONT（L）
② フロントスピーカー R	FRONT（R）
③ センタースピーカー	CENTER
④ サラウンドスピーカー L	SURROUND（L）
⑤ サラウンドスピーカー R	SURROUND（R）
⑥ サラウンドバックスピーカー	SURROUND BACK/BI-AMP（L）
⑧ サブウーファー	SUBWOOFER

■ 5.1 チャンネル構成の場合

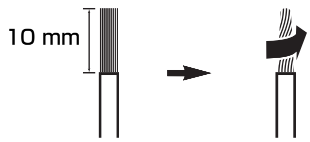
スピーカー	本機の端子
① フロントスピーカー L	FRONT（L）
② フロントスピーカー R	FRONT（R）
③ センタースピーカー	CENTER
④ サラウンドスピーカー L	SURROUND（L）
⑤ サラウンドスピーカー R	SURROUND（R）
⑧ サブウーファー	SUBWOOFER

スピーカーケーブルを接続する

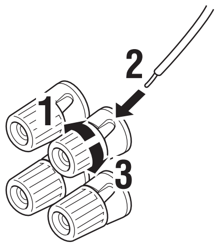
警告
- 一般的にスピーカーケーブルは、平行した2本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの1本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「–」（マイナス、黒）へ接続してください。
- スピーカーを接続する場合は、本機の電源プラグをコンセントからはずしてください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。また、スピーカーケーブルがショートしていると、本機の電源をオンにしたときにフロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示されます。
- スピーカーは防磁型をお使いください。防磁型スピーカーをお使いでもモニター機器の画面が乱れる場合は、モニターとスピーカーを離して設置してください。
- スピーカーはインピーダンスが6Ω 以上のものをお使いください。

■ フロントスピーカーを接続する

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を10mm ほどはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。

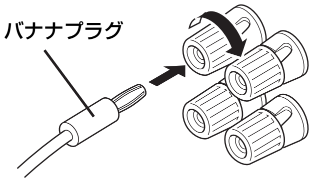


2 スピーカー端子をゆるめ、端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込んでから、端子を締め付ける。



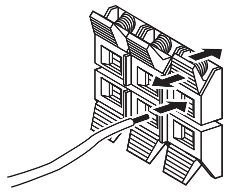
赤：プラス
黒：マイナス

バナナプラグを使って接続する
スピーカー端子をしっかりと締め付け、端子の先端にバナナプラグを差し込む。



■ センター/サラウンド/サラウンドバックスピーカーを接続する

1 スピーカー端子のタブを押し下げて、スピーカーケーブルの先端を端子に差し込む。

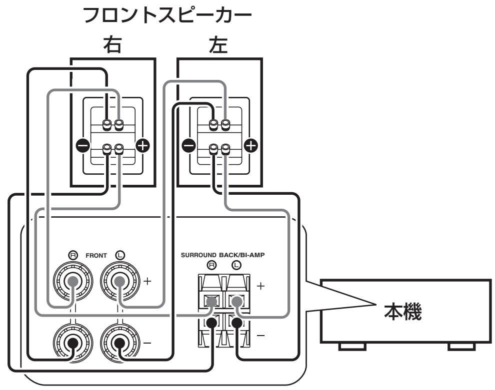


赤：プラス
黒：マイナス

2 タブを押し上げてスピーカーケーブルを固定する。

スピーカーをバイアンプ接続する

本機は、バイアンプ接続対応のスピーカーを接続できます。接続を行う前に、アドバンスドセットアップメニューでバイアンプ接続可能な状態に設定（51ページ）し、下図の要領で本機とスピーカーを接続してください。

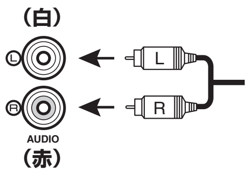
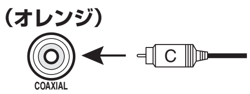
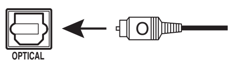


警告
- バイアンプ接続を行う前に、必ずスピーカー側のウーファーとツィーターをつなぐ金具（またはケーブル）を取りはずしてください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご確認ください。バイアンプ接続をしない場合は、上記の金具（またはケーブル）を必ず取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。

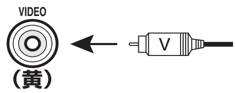
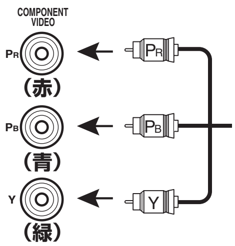
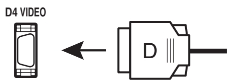
端子とケーブル

本機は次のような入出力端子を装備しています。外部機器側の端子に応じて、適切な端子およびケーブルをご使用ください。

■ 音声端子

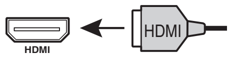
端子とケーブル	説明
AUDIO 端子 	標準的なアナログ L/R の音声信号を伝送します。接続にはステレオピンケーブルを使用し、赤いケーブルの先端部を赤い端子（R)、白いケーブルの先端部を白い端子（L）へ接続します。
COAXIAL 端子 	同軸デジタル音声信号を伝送します。接続にはデジタル音声用のピンケーブルを使用します。
OPTICAL 端子 	光デジタル音声信号を伝送します。接続には、光デジタル音声用の光ファイバーケーブルを使用します。

■ 映像端子

端子とケーブル	説明
VIDEO 端子 	標準的なコンポジットビデオ信号を伝送します。接続には、ビデオ用ピンケーブルを使用します。
COMPONENT VIDEO 端子 	輝度信号（Y）と青色差信号（PB)、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号を伝送します。接続には、コンポーネントビデオケーブルを使用します。
D 端子 	輝度信号（Y）と青色差信号（PB)、赤色差信号（PR）に分離したコンポーネントビデオ信号、およびコントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を伝送します。接続にはD 端子ケーブルを使用します。

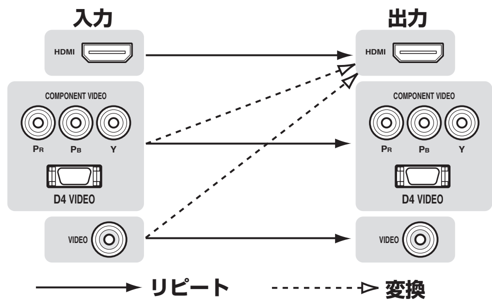
- 本機の D 端子は、D1 から D4 ビデオまで対応します。
- AV 入力 1 または AV 入力 2 を使って接続を行う場合は、D 端子 / COMPONENT VIDEO 端子の両方にケーブルを接続しないでください。両方にケーブルを接続した場合、画像が乱れることがあります。

■ 映像 / 音声端子

端子とケーブル	説明
HDMI 端子 	デジタルビデオ信号とデジタル音声信号を伝送します。接続には HDMI ケーブルを使用します。

- 接続には19ピンのHDMIケーブルで、HDMIロゴのついているものをお使いください。また、長さ 5.0m 以下のものを使うことをおすすめします。
- 本機をDVI端子のある機器に接続する場合は、HDMI端子 ↔ DVI-D 端子の変換ケーブルが必要です。
- HDMI 接続に関するエラー情報を確認できます（39 ページ）。

本機に入力したビデオ信号は、MONITOR OUT にある同じ種類の出力端子から送出されます。
たとえばコンポジット出力のビデオデッキと COMPONENT VIDEO 端子出力の DVD プレーヤーを本機に接続した場合は、MONITOR OUT の VIDEO 端子 /COMPONENT VIDEO 端子の両方をモニター機器に接続してください。
HDMI 入力対応のモニター機器をご使用の場合は、本機の映像入力端子から入力されたアナログビデオ信号をデジタル映像信号に変換後、HDMI OUT 端子から出力できます。



準備

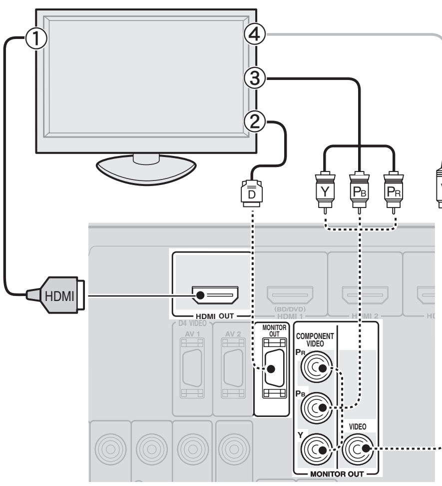
テレビやプロジェクターを接続する

テレビやプロジェクターなどのモニター機器を本機の出力端子と接続します。本機には、「HDMI OUT」、「D端子またはCOMPONENT OUT」、「コンポジットビデオ」の３種類のモニター出力端子が搭載されています。

ご注意

- モニター機器との接続は、本機の電源が STANDBY の状態で行ってください。

テレビまたはプロジェクター



■ HDMI 入力対応のモニターと接続する場合

	モニター側の端子	本機の端子
①	HDMI 入力	HDMI OUT

- 本機は HDMI コントロール機能に対応しています。HDMI コントロールに対応するテレビと接続すれば、テレビのリモコンで本機の操作が行えます。詳しくは 37 ページをご覧ください。

■ D 端子 / コンポーネントビデオ入力対応のモニターと接続する場合

ご注意

- D端子およびコンポーネント端子からは、本機のD端子/コンポーネント端子に入力された映像信号のみ出力されます。
- D 端子と COMPONENT VIDEO 端子の両方を同時に接続しないでください。

	モニター側の端子	本機の端子
②	D 端子入力	MONITOR OUT（D 端子）
③	コンポーネント ビデオ入力	MONITOR OUT （COMPONENT VIDEO）

■ コンポジットビデオ入力対応モニターと接続する場合

ご注意

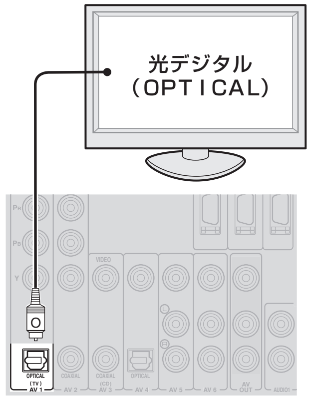
- コンポジットビデオ端子からは、本機のコンポジットビデオ端子に入力された映像信号のみ出力されます。

	モニター側の端子	本機の端子
④	Video 入力 （コンポジット）	MONITOR OUT （VIDEO 端子）

テレビの音声を本機で出力するには

テレビの音声を本機で出力する場合は、本機の AV 入力 1-6 にテレビのオーディオ出力端子を接続します。
テレビ側が光デジタル出力に対応している場合は、テレビのオーディオ出力を本機の AV 入力 1 に接続することをおすすめします。AV 入力 1 と接続すれば、シーン機能（25 ページ）を使って、キー操作 1 つで入力ソースを AV 入力 1 に切り替えできます。

テレビまたはプロジェクター



ご注意

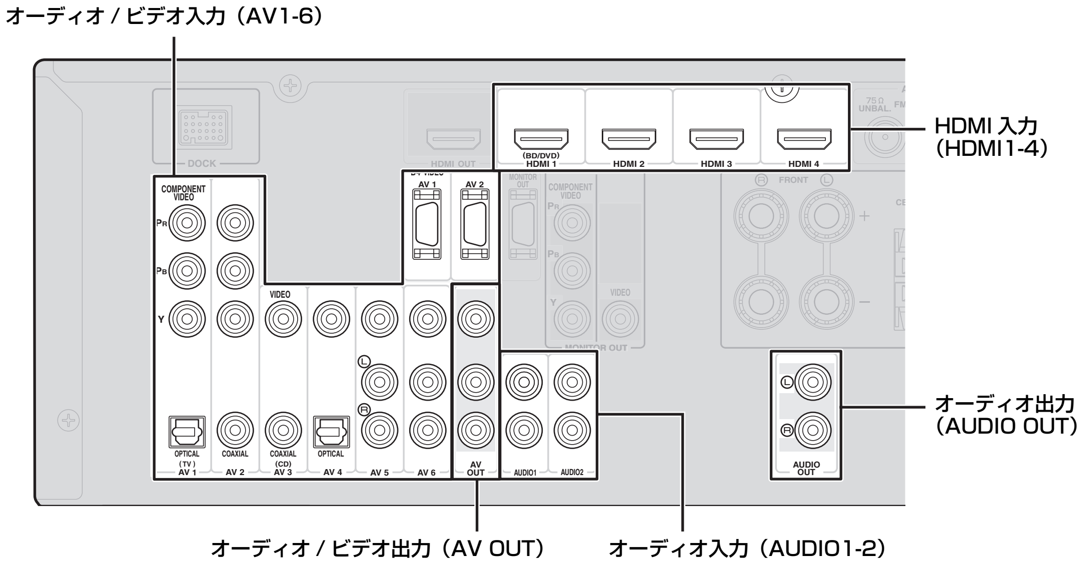
- モニター機器が HDMI コントロール機能に対応している場合、本機とモニター機器の HDMI コントロール機能をオンにすると、モニター機器の入力切り替えに合わせて本機のシーンが自動的に「TV」へ切り替わります。モニター機器の音声出力を AV2-6 や Audio1-2、V-AUX などに接続した場合は、端子に対応する入力ソースをシーンの「TV」に割り当ててください（25 ページ）。

他の外部機器を接続する

本機には、入出力ソースごとに接続端子が用意されています。フロントパネルやリモコンで対応する入力ソースを選ぶと、該当する機器の映像や音声が再生できます。

ご注意

- モニター機器との接続は、本機の電源が STANDBY の状態で行ってください。



■ ブルーレイディスク /DVD プレーヤー、衛星チューナーなどの映像機器

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	信号の種類	出力端子		
HDMI 出力を持つ外部機器	Audio/ Video	HDMI 出力	HDMI1（BD/DVD）	HDMI1
			HDMI2	HDMI2
			HDMI3	HDMI3
			HDMI4	HDMI4
D 端子出力を持つ外部機器	Audio	光デジタル	AV1（TV）	OPTICAL
	Video	D 端子		D4 VIDEO
	Audio	同軸デジタル	AV2	COAXIAL
	Video	D 端子		D4 VIDEO
コンポジットビデオ出力を持つ外部機器	Audio	同軸デジタル	AV3（CD）	COAXIAL
	Video	コンポジット		VIDEO
	Audio	光デジタル	AV4	OPTICAL
	Video	コンポジット		VIDEO
	Audio	アナログオーディオ	AV5	AUDIO
	Video	コンポジット		VIDEO
	Audio	アナログオーディオ	AV6	AUDIO
	Video	コンポジット		VIDEO

- カッコ付きの入力ソースは、接続を推奨する機器を表します。対応機器を接続すれば、シーン機能（25 ページ）を使って、キー操作 1 つで該当機器へと入力ソースを切り替えできます。
- モニター画面の OSD やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名は、必要に応じて変更できます（49 ページ）。

■ CD プレーヤーなどのオーディオ機器

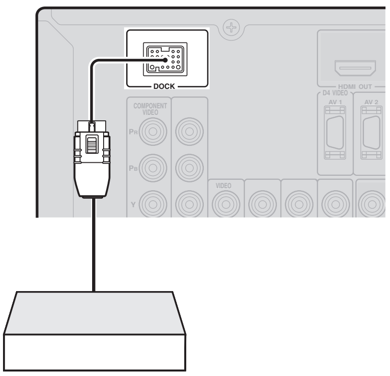
接続する外部機器の出力端子		本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	出力端子		
光デジタル出力を持つ外部機器	光デジタル	AV1（TV）	OPTICAL
		AV4	OPTICAL
同軸デジタル出力を持つ外部機器	同軸デジタル	AV2	COAXIAL
		AV3（CD）	COAXIAL
アナログオーディオ出力を持つ外部機器	アナログオーディオ	AV5	AUDIO
		AV6	AUDIO
		AUDIO1	AUDIO
		AUDIO2	AUDIO

- 同軸デジタル出力端子を搭載した CD プレーヤーを接続する場合は、AV3 へ接続することをおすすめします。

オーディオ / ビデオ出力端子について
本機の入力端子に入力されたアナログ映像 / アナログ音声信号のうち、入力ソースとして選ばれた機器の映像や音声が AV OUT 端子や AUDIO OUT 端子から出力されます。HDMI 入力や COMPONENT VIDEO 入力、デジタルオーディオ入力の信号は出力できません。AV OUT 端子や AUDIO OUT 端子を使用する場合は下記のように接続を行ってください。
AV OUT 端子を使用する場合：外部機器をコンポジット端子 / アナログオーディオ端子に接続してください。
AUDIO OUT 端子を使用する場合：外部機器をアナログオーディオ端子に接続してください。

ヤマハ製 iPod ユニバーサルドック /Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを接続する

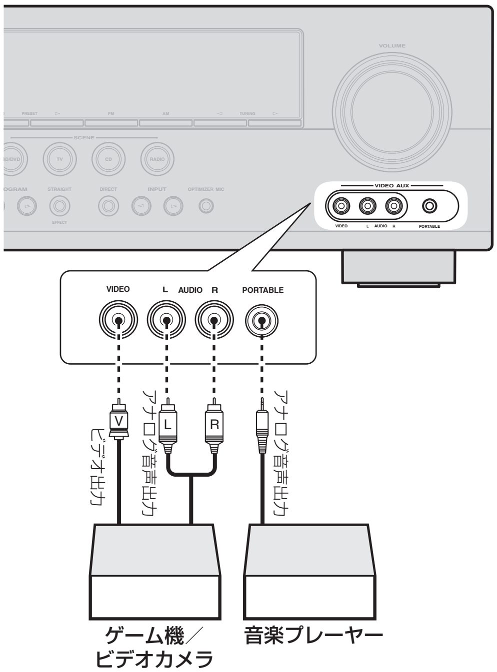
本機には、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（別売 YDS-11）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10）を接続できる DOCK 端子が装備されています。DOCK 端子にこれらのアダプターを接続すれば、本機を使って iPod や Bluetooth 機器の再生が楽しめます。
専用のケーブルを使って、本機の DOCK 端子とアダプターを接続します。



ヤマハ製iPodユニバーサルドック／
Bluetoothワイヤレスオーディオレシーバー

VIDEO AUX 端子を使う

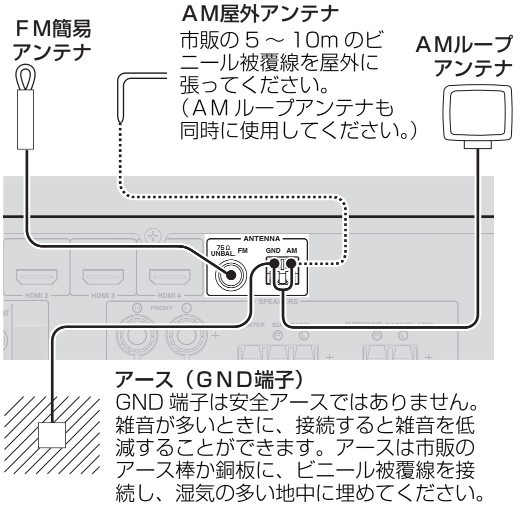
ビデオカメラやゲーム、携帯音楽プレーヤーなどの機器を手軽に接続したい場合は、フロントパネルの V-AUX 端子を利用するのが便利です。接続を行うときは、本機と接続機器の音量を十分に下げてください。



- PORTABLE 端子と AUDIO 端子の両方を接続した場合、PORTABLE 端子の音声が出力されます。

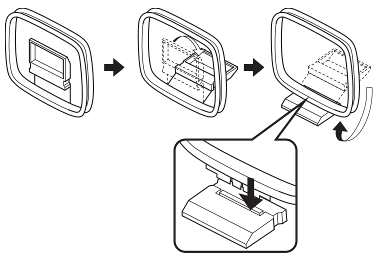
FM/AMアンテナを接続する

本機には、FM 簡易アンテナと AM ループアンテナが付属しています。これらのアンテナを各端子に正しく接続してください。



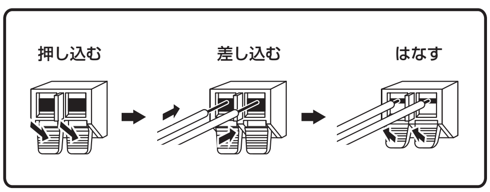
- 通常は、付属のアンテナで十分な受信感度が得られます。
- AM ループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。

AM ループアンテナの組み立て方



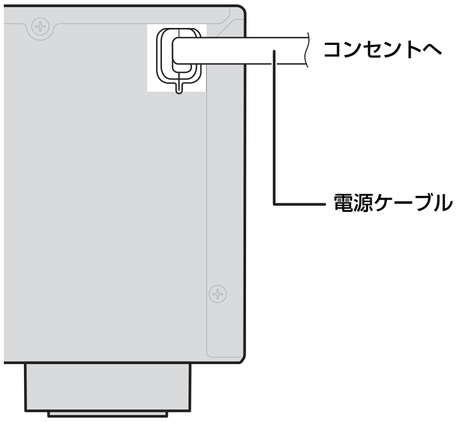
AM ループアンテナの接続方法

AM ループアンテナのコードに極性はありません。AM 端子、GND 端子にはどちらのケーブルを接続しても構いません。



電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、本機の電源ケーブルのプラグを家庭用 AC100V、50/60Hz のコンセントに電源プラグを接続します。



本機の電源をオンにする

1 電源をオンにするには、ⒶSTANDBY/ON（または ⑥POWER）を押す。

2 電源をオフ（スタンバイ）にするには、もう一度ⒶSTANDBY/ON（または⑥POWER）を押す。

- 電源をオンにしてから再生可能になるまで数秒かかります。
- ⓘ**SCENE**（⑪**SCENE**）キーを押して本機の電源をオンにすることもできます。
- 電源がスタンバイになっている間でも、少量の待機電力を消費します。長期間本機を使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いておくことをおすすめします。

警告
本機の電源をオンにした状態で、電源ケーブルのプラグをコンセントから抜かないでください。故障の原因となったり、本機で行なった各種設定が正常に記憶されないことがあります。

準備

スピーカーの出力特性を自動調整する（YPAO）

本機には、お使いのスピーカーの配置や性能、リスニングルームの音響特性を測定し、最適なバランスで出力されるようスピーカーの出力特性を自動調整する YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。本機をご使用になる際には、最初に YPAO を使って調整を行うことをおすすめします。

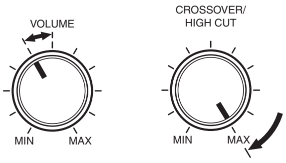
ご注意
- 測定中テストトーンが大きな音量で出力されます。測定中は、リスニングルームに小さなお子様が入らないようご配慮ください。
- 最適な測定結果を得るため、測定中はリスニングルームをできるだけ静かに保ってください。物音が鳴っている状況では、正確な測定結果が得られないことがあります。

- スピーカーの出力特性は、セットアップメニューの「Manual Setup」を使って手動で設定することもできます。詳しくは、44 ページをご覧ください。

Auto Setup を実行する

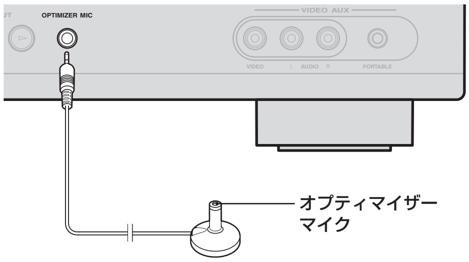
1　測定環境に問題がないか確認する。

測定を始める前に、必ず以下のことをご確認ください。
- すべてのスピーカー、サブウーファーが正しく接続されている。
- ヘッドホンを取りはずしている。
- モニター機器が正しく接続されている。
- 本機とモニターの電源がオンになっている。
- モニターの映像入力が本機の映像に切り替わっている。
- サブウーファーの電源をオンにして、音量が約半分（または半分よりやや小さめ）に設定されている。
- サブウーファーのクロスオーバー周波数が最大に設定されている。

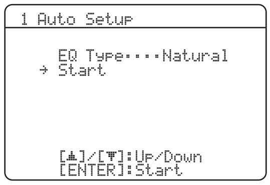


サブウーファー

2　フロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。

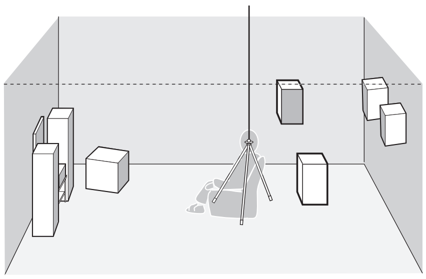


フロントパネルディスプレイに「MIC ON. View OSD MENU」と表示されます。また、モニターには以下の画面が表示されます。



- この画面は、セットアップメニューを使って表示させることもできます（44 ページ）。

3　オプティマイザーマイクのヘッド部を上に向け、耳と同じ高さになるように視聴位置（リスニングポジション）へ置く。



- マイクを耳と同じ高さに設置するために、三脚などを使うことをおすすめします。三脚に設置する場合は、三脚側のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

4 調整時のサウンドキャラクターを選択したい場合は、⑭ カーソル △ を押して「EQ Type」を選び、⑭ カーソル ◁/▷ を押す。

⑭ **カーソル**が操作できない場合は、⑫**SETUP** を押してからもう一度操作してください。
本機には、周波数帯域ごとにレベルを調整できるパラメトリックイコライザーが搭載されています。自動測定されたスピーカー特性の結果をうけ、一体感のある音場が得られるようにイコライザーが調節されます。
「EQ Type」では、ご希望のサウンドキャラクターを下記の中から選択できます。

Natural
すべてのスピーカーの音声を、自然な音質が得られるよう調整します。「Flat」では高域がきつく聞こえる場合に選択してください。

Flat
各スピーカーの特性を均一にします。すべてのスピーカーの品質が同じ場合に設定してください。

Front
各スピーカーの特性をフロント L/R スピーカーにあわせます。フロントスピーカーの品質が他のスピーカーよりも大幅に優れている場合に選択してください。

5 測定を開始するには、⑭ カーソル ▽ を押して「Start」を選び、⑭ENTER を押す。

カウントダウンが始まり、約 10 秒後に測定が始まります。測定中は、大きな音量でテストトーンが出力されます。

ご注意

- 測定中は、本機を操作しないでください。
- ⑭ **カーソル** △ を押すと測定をキャンセルできます。

> 測定には約 3 分かかります。より正確な測定結果を得るため、測定を妨げない位置（スピーカーの横や後ろなど）に移動して物音などを立てないようにするか、リスニングルームの外で待機することをおすすめします。

問題なく測定が終わると、フロントパネルディスプレイに「YPAO Complete」と表示され、モニターに計測結果が表示されます。

```
1 Auto Setup

     RESULT
      SP  :         3/4/0.1
      DIST:    2.50/ 3.00m
      LVL :   -3.5/ +4.5dB
  →     >Set     Cancel

     [◀]/[▶]:Select
     [ENTER]:Finish
```

SP
本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センターの合計 /
サラウンド、サラウンドバックの合計 /
サブウーファー

DIST
リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離 /
最も遠いスピーカーまでの距離

LVL
スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル / 最も高い音量レベル

ご注意

- Auto Setup の実行中に「ERROR」と表示された場合、測定はキャンセルされ、エラー内容が表示されます。詳しくは「測定中にエラーメッセージが表示された場合」（24 ページ）をご覧ください。
- 測定中に問題が発生した場合は、「RESULT」の上に「WARNING（xx）」（xx は警告の数）と表示されます。詳しくは「測定後に警告メッセージが表示された場合」（24 ページ）をご覧ください。

6 ⑭ENTER を押す。

測定された結果に応じて、スピーカーの出力特性が調整されます。
操作をキャンセルしたい場合は、⑭ **カーソル** ◁ / ▷ を押して「Cancel」を選び、⑭**ENTER** を押します。
次の画面が表示されたら、オプティマイザーマイクを取りはずしてください。Auto Setup が終了します。

```
1 Auto Setup

     AUTO SETUP Complete
    Disconnect Microphone

        PRESS [ENTER]
         [SETUP]:Exit
```

> オプティマイザーマイクは熱に弱いため、測定が終了したら AV 機器の上など、高温になる場所や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

- 計測結果を適用しない場合は「Cancel」を選んでください。
- スピーカーの数を変更した場合や、設置場所を変更したときは、もう一度 Auto Setup を実施してください。
- オプティマイザーマイクを取りはずす前に⑭**ENTER**を押した場合は、セットアップメニューの「Speaker Setup」メニューの「1 Auto Setup」（44 ページ）が表示されます。

準備

測定中にエラーメッセージが表示された場合

⑭ カーソル ▽ を一度押し、⑭ カーソル ◁ / ▷ を使って「Retry」または「Exit」を選び、⑭ENTER を押す。

```
ERROR

 → E-9:USER CANCEL
     Don't operate
     any function

   >Retry   Exit

   [◀]/[▶]:Select
   [ENTER]:Return
```

Retry

Auto Setup をもう一度実施します。

Exit

測定を中止して Auto Setup を終了します。

- エラーメッセージの詳細は 57 ページをご覧ください。
- 「E-5:NOISY」が表示された場合は測定を続行することも可能です。続行する場合は「Proceed」を選択します。ただし、問題を解決してから測定しなおすことをおすすめします。

測定後に警告メッセージが表示された場合

測定中に問題が発生した場合、結果表示画面に「WARNING」が表示されます。警告内容を確認し、問題を解決してください。警告メッセージについては、58 ページをご覧ください。

```
WARNING

    W-1:OUT OF PHASE
     Reverse channel
       FL      ---
       CENTER
       SL      ---
       SBL     ---

    [ENTER]:Return
```

- 警告メッセージの詳細は 58 ページをご覧ください。
- 警告メッセージが表示された場合、最適な設定は行われません。問題を解決してから再度 Auto Setup を行うことをおすすめします。

1 「WARNING」の左側に「→」が表示されていることを確認し、⑭ENTER を押す。

警告メッセージの内容が表示されます。複数の警告がある場合は、⑭ **カーソル** ▷ を押して次の警告を表示できます。

2 元の画面に戻るには、もう一度 ⑭ENTER を押します。

基本操作

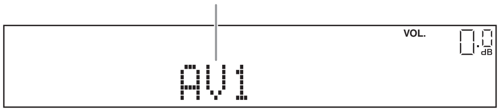
再生する

再生の基本操作

1　本機に接続された外部機器（テレビや DVD プレーヤーなど）の電源をオンにする。

2　入力ソースを選ぶには ⓃINPUT ◁ / ▷（または 7 入力ソース選択キー）を押す。

入力ソース名



- フロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名は、必要に応じて変更できます（49 ページ）。

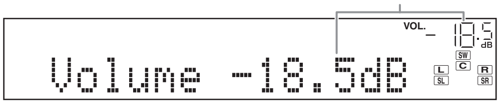
3　入力ソースとして選んだ外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選ぶ。

外部機器の再生方法については、外部機器に付属する取扱説明書をご覧ください。放送局の選び方や、本機を使って iPod や Bluetooth 機器を再生する方法については、下記ページをご覧ください。

- FM/AM 放送を聴く（32 ページ）
- Bluetooth 機器を再生する（36 ページ）
- iPod を再生する（34 ページ）

4　音量を調節するには、ⓅVOLUMEコントロールを回す（または 15VOLUME +/– を押す）。

音量



ご注意

DTS-CD を再生した場合、使用状況によってはノイズが再生され、スピーカーが破損する原因になることがあります。再生する前に音量が十分に下がっていることを確認のうえ、ノイズが再生された場合は、下記の対策を行ってください。

1) ノイズだけが再生される
DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。

2) 再生 / スキップ操作時にノイズが発生する
DTS-CD を再生する際に、入力ソース選択後にオプションメニューを表示して「Decoder Mode」を「DTS」に設定してください（38 ページ）。

シーン機能を使う

本機には、キー操作 1 つで入力ソースや音場プログラムなどを一括切り替えできる「シーン機能」が搭載されています。映画鑑賞や音楽鑑賞など、使用目的に合わせた 4 つのシーンが用意されており、次のような入力ソースと音場プログラムが初期設定されています。

キー名称	入力ソース	音場プログラム
BD/DVD	HDMI1	Straight
TV	AV1	Straight
CD	AV3	Straight
RADIO	TUNER	7ch Enhancer

- 本機が STANDBY のときに ⓘ**SCENE**（または 11**SCENE キー**）を押すと、本機の電源をオンにできます。

シーンを選択するには

ⓘSCENE（または 11SCENE キー）を押す。

好みの入力ソース / 音場プログラムを登録するには

登録したい入力ソース / 音場プログラムを選び、フロントパネルディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、ⓘSCENE（または 11SCENE キー）を押し続ける。

モニターにオプションメニューやセットアップメニューが表示されている場合は、画面に「SCENE Setting Complete」と表示されます。

リモコン操作する外部機器をシーン切り替えに連動させる

本機のリモコンは、入力ソースごとに外部機器操作用のリモコンコードを設定することで、外部機器を操作できます。お好みの入力ソースにリモコンコードを設定しておけば、シーンの切り替えに連動してリモコン操作する外部機器を切り替えることが可能です。

1　お好みの入力ソースに、外部機器操作用のリモコンコードを登録する（50 ページ）。

ご注意

- TUNER 入力にリモコンコードを登録することはできません。

2 リモコンを使って、割り当てを切り替える ⑪SCENEキーを押しながら、手順1でリモコンコードを設定した ⑦ 入力ソース選択キーを約 3 秒押し続ける。

以降はシーンを選ぶだけで外部機器が操作可能になります。

一時的に消音する（ミュート）

1 消音するには、リモコンの ⑰MUTE を押す。

消音されている間、フロントパネルディスプレイの MUTE インジケーターが点滅します。

2 消音を解除するには、もう一度 ⑰MUTE を押す。

高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

フロント L/R スピーカーまたはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

- スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作を行ってください。

1 フロントパネルのⒿTONE CONTROLを繰り返し押して、「Treble」または「Bass」を選ぶ。

フロントパネルディスプレイに、現在の設定値が表示されます。

```
Treble   0.0dB
```

2 ⓀPROGRAM ◁ / ▷ を使って、音量の増減を調節する。

調節範囲：–10.0dB ～ +10.0dB

キーから手を離してしばらく待つと、元の表示に戻ります。

ご注意

- ダイレクトモードで再生している場合、トーンコントロールの設定は無効になります。
- 音色を極端なバランスに調節した場合、他チャンネルのスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。

原音に忠実な音質で楽しむ（ダイレクトモード）

ダイレクトモードは、入力された音声を最小限の回路構成で出力する機能です。原音に忠実な音質で入力ソースの音声を楽しみたいときに使用します。

ⓂDIRECT（または ⑩DIRECT）を押して、ダイレクトモードのオン / オフを切り替える。

ダイレクトモードをオンにしている間は、以下の機能が無効になります。

- 他の音場プログラム、トーンコントロールの設定
- オプションメニューやセットアップメニューの表示および操作

- ダイレクトモードをオンにしている間、フロントパネルディスプレイの表示は暗くなります。オフに戻すと元の明るさに戻ります。

ヘッドホンを使用する

フロントパネルの ⒷPHONES 端子に、ヘッドホンのプラグを差し込む。

ヘッドホンの使用中に音場プログラムを選ぶと、自動的にサイレントシネマモードに切り替わります。

ご注意

- ヘッドホンを接続している間、スピーカーから音声は出力されません。
- マルチチャンネルの信号を再生した場合、すべてのチャンネルの音声が左右のチャンネルに振り分けられます。

入力信号の各種情報を表示する

本機に入力されている映像 / 音声の各種情報を、入力ソースごとに表示します。

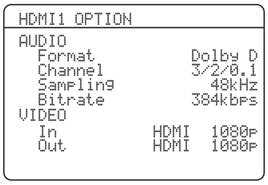
- 入力信号の情報はモニターとフロントパネルディスプレイの両方に表示されます。情報の表示中は、⑭ **カーソル** △ / ▽ を押してフロントパネルに表示する項目を切り替えできます。

1 情報を表示したい入力ソースを選び、⑬OPTION を押す。

選択した入力ソースのオプションメニュー（38 ページ）が表示されます。

2 ⑭ カーソル △ / ▽ を押して、「Signal Info」を選択し、⑭ENTER を押す。

入力信号の情報が表示されます。表示されるメッセージについては 39 ページをご覧ください。



ご注意

- HDMI 関連のエラーが発生している場合は、画面最下部にエラー情報が表示されます。

3 表示を終了するは ⑬OPTION を押す。

フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替える

フロントパネルディスプレイに表示される情報は、入力ソースごとに入力ソース名（Input）、音場プログラム（DSP Program）、サラウンドデコーダー（Audio Decoder）などの各種情報が表示できます。表示を切り替えるには、Ⓒ**INFO**（または ⑨**INFO**）を押します。

たとえば HDMI1 入力を選び「DSP Program」を表示した場合は、フロントパネルディスプレイに次のように表示されます。



それぞれの入力ソースでは以下の情報を表示できます。

HDMI1-4： Input、DSP Program、Audio Decoder
AV1-6： Input name、DSP Program、Audio Decoder
AUDIO1-2： Input、DSP Program、Audio Decoder
V-AUX： Input、DSP Program、Audio Decoder
FM/AM： Frequency、DSP Program、Audio Decoder
iPod（ノーマルモード）： Input、DSP Program、Audio Decoder
iPod（メニュー表示モード）： （PlayInfo 表示中）Artist、Album、Song、DSP Program、Audio Decoder
（メニュー表示中）List
Bluetooth： Input name、DSP Program、Audio Decoder

音場プログラムを楽しむ

本機には、ヤマハデジタルサウンドフィールドプロセッシング（DSP）チップを搭載しています。記憶されたさまざまな音場プログラムや多彩なデコーダーを使って、入力ソースのほぼすべてをマルチチャンネル音声で楽しむことができます。

音場プログラムを選ぶ

■ フロントパネルで音場プログラムを選ぶには

ⓚ**PROGRAM** ⊲ / ⊳ を繰り返し押してお好みの音場プログラムを選択します。

■ リモコンで音場プログラムを選ぶには

音場プログラムのカテゴリーに合わせて、次の操作を行います。

映像用音場プログラム ....⑩**MOVIE** を繰り返し押します。
音楽用音場プログラム ....⑩**MUSIC** を繰り返し押します。
ステレオ再生..⑩**STEREO** を繰り返し押します。
マルチチャンネルステレオ再生用音場プログラム............⑩**STEREO** を繰り返し押します。
コンプレストミュージック・エンハンサー ....⑩**STEREO** を繰り返し押します。
サラウンドデコーダー ....⑩**SUR.DECODE** を繰り返し押します。

たとえば映像用音場プログラムの「Sci-Fi」を選択した場合は、フロントパネルディスプレイへ次のように表示されます。



ご注意

- 音場プログラムは、入力ソースごとに記憶されます。入力ソースを切り替えると、該当する入力ソースで前回選ばれていた音場プログラムが呼び出されます。
- Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS Express、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio 信号を再生している場合、サラウンドデコーダー以外の音場プログラムは適用されず、ストレートデコードモード（31 ページ）で再生されます。
- 入力ソースが 96kHz を超えるサンプリング周波数の場合、音場プログラムは適用されません。

音場プログラムガイド

本機には、音楽用、映像用、ステレオ再生用など、複数カテゴリーの音場プログラムが用意されています。音場プログラムの名前や説明にこだわらず、再生するソースが最も心地よく聴こえるプログラムをお選びください。

- 現在信号を出力しているスピーカーは、フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターで確認できます。
- それぞれのプログラムは、音場の要素（音場パラメーター）を調節できます。詳しくは 41 ページをご覧ください。
- 表中の CINEMA DSP は、シネマ DSP を使った音場プログラムを表します。

映像用音場プログラム　CINEMA DSP

プログラム	特長
スタンダード Standard	Dolby Digital、DTS および AAC などの各種マルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱すことなく、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」をコンセプトにデザインされた音場で、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。
スペクタクル Spectacle	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面にマッチする広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広い音場感が特長です。
サイファイ Sci-Fi	最新 SFX 映画の緻密なサウンドデザインを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の異なった空間を鮮やかに再現します。

プログラム	特長
アドベンチャー Adventure	アクション＆アドベンチャー映画に最適な音場です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
ドラマ Drama	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長の音場です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
モノムービー Mono Movie	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめる音場です。音声に拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。
スポーツ Sports	ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し、歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感できます。
アクションゲーム Action Game	カーレースや FPS などのアクションゲームに合わせてデザインされた音場です。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データを用いることで、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力のあるプレイ環境を提供します。
ロールプレイングゲーム Roleplaying Game	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせてデザインされた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせることで、プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。

音楽用音場プログラム

プログラム	特長
ホール イン ミュンヘン Hall in Munich	ヨーロッパに多くみられる、内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は 1 階の中央左寄りです。
ホール イン ウィーン Hall in Vienna	1700 席程度のウィーンの伝統的なシューボックス型の中規模コンサートホールです。周囲の柱や彫刻により、全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
チェンバー Chamber	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長の音場です。
セラークラブ Cellar Club	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
ザ ロキシー シアター The Roxy Theatre	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約 460 程です。客席中央左寄りの音場です。
ザ ボトム ライン The Bottom Line	かつてニューヨークに存在した有名なライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長の音場です。
ミュージックビデオ Music Video	ビデオポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感と、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場に加え、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場により、ホットなライブ空間に浸れます。

ステレオ再生

プログラム	特長
2 チャンネル ステレオ 2ch Stereo	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な再生モードです。

- マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロント L/R スピーカーから出力されます。

マルチチャンネルステレオ再生用音場プログラム CINEMA DSP

プログラム	特長
7チャンネル ステレオ 7ch Stereo	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の再生モードです。ホームパーティーの BGM に最適です。セットアップメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

コンプレストミュージック・エンハンサー

プログラム	特長
ストレート エンハンサー Straight Enhancer	2 チャンネルまたはマルチチャンネルの圧縮オーディオフォーマットを、再生ソースのチャンネル数をそのままに、ダイナミックに再生します。
7チャンネル エンハンサー 7ch Enhancer	再生ソースのチャンネル数にかかわらず、圧縮オーディオフォーマットを、7 チャンネルでダイナミックに再生します。

サラウンドデコーダー

サラウンドデコーダーを使って、2 チャンネルソースを最大 7 チャンネルで再生します。

デコーダー	特長
Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
ムービー PLIIx Movie/PLII ムービー Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーが使用できない場合 • ヘッドホンを接続している場合
ミュージック PLIIx Music/PLII ミュージック Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーが使用できない場合 • ヘッドホンを接続している場合
ゲーム PLIIx Game/PLII ゲーム Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。視聴環境が下記の条件の場合、Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。 • サラウンドバックスピーカーが使用できない場合 • ヘッドホンを接続している場合
シネマ Neo:6 Cinema	DTS デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
ミュージック Neo:6 Music	DTS デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

- マルチチャンネルの音声が入力された場合は、ストレートデコードモード（31 ページ）で再生が行われます。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

ストレートデコードモードは、音場効果をかけずに再生する機能です。2 チャンネルの再生ソースの場合、フロント L/R スピーカーからステレオ音声で再生します。マルチチャンネルの入力ソースの場合は、ソースを適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

1 ストレートデコードモードを有効にするには、Ⓛ STRAIGHT（または ⑩ STRAIGHT）を押す。

フロントパネルディスプレイに「Straight」と表示されます。

2 ストレートデコードモードを解除するには、もう一度 Ⓛ STRAIGHT（または ⑩ STRAIGHT）を押す。

フロントパネルディスプレイに音場プログラム名が表示され、音場効果がかかった状態に戻ります。

サラウンドスピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマ DSP）

バーチャルシネマ DSP は、サラウンドスピーカーがない場合でも、仮想スピーカーを創り出すことによって自然な音場効果を再現する機能です。フロントスピーカーのみの構成でも、音場プログラムの臨場感あふれる再生を楽しめます。

セットアップメニューの「Sur. L/R SP」（45 ページ）を「None」に設定するとバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

ご注意

- 以下の場合は、「Sur. L/R SP」を「None」に設定しても（45 ページ）、バーチャルシネマ DSP モードは動作しません。
  – ヘッドホンを PHONES 端子に接続しているとき
  – 音場プログラムの 7ch Stereo を選んでいるとき
  – ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを使用しているとき

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマ™）

サイレントシネマは、マルチチャンネルソースを、ヘッドホンで楽しむ機能です。音場プログラム（28 ページ）を選んでいるときにヘッドホンを PHONES 端子に接続すれば、自動的にサイレントシネマモードに切り替わります。

ご注意

- 以下の場合は、サイレントシネマモードは動作しません。
  – 音場プログラムの 2ch Stereo を選んでいるとき
  – ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選択しているとき

基本操作

FM/AM 放送を聴く

本機の FM/AM チューナーは、次の 2 種類の方法でチューニングが行えます。

■ ノーマルチューニングモード

放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして FM/AM 放送を受信します。

■ プリセットチューニングモード

あらかじめ FM/AM 放送局をプリセット（登録）しておき、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

ご注意

- 受信感度が最良になるように、本機に接続した FM/AM アンテナの向きや位置を調節してください。

FM/AM 放送を受信する（ノーマルチューニング）

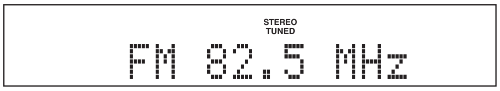
1 ⓃINPUT◁ / ▷ を繰り返し押して（または ⑦TUNER を押して）、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 ⒻFM（⑧FM）または ⒼAM（⑧AM）を押してバンドを選ぶ。

選択したバンドに応じて、フロントパネルディスプレイに「FM」または「AM」と表示されます。

3 ⒽTUNING ◁ / ▷（または ⑧TUNING △ / ▽）を押して、周波数を指定する。

▷（または △）を押すと現在より高い周波数、◁（または ▽）を押すと現在より低い周波数を選択できます。放送局を受信するとフロントパネルディスプレイの TUNED インジケーターが点灯します。放送局をステレオで受信している場合は、STEREO インジケーターも表示されます。



ⒽTUNING ◁ / ▷（または **⑧TUNING** △ / ▽）の押し方に応じて次のように動作が変わります。

キーを 1 秒以上押し続けた場合

現在の周波数前後にある受信可能な放送局を自動的にサーチします。電波が強く、受信を妨げる障害物がない場合に効果的です。サーチが始まったらキーから手を離してください。

キーを押してすぐに放した場合

周波数を 1 ステップ単位で増減します。受信したい放送局の電波が弱く、サーチではうまく受信できない場合に使います。

- FM 放送のステレオ / モノラルを切り替えは、オプションメニュー（40 ページ）から行えます。

4 周波数を直接指定して受信するには、リモコンの ⑲ 数字キーを使って受信したい放送局の周波数を入力する。

小数点は省略して入力します。例えば 77.1MHz の放送局を選択する場合は、⑲ **数字キー**で「771」と入力します。

ご注意

- プリセットチューニング中、⑲ **数字キー**を押すとプリセット番号が選択されます。Ⓗ**TUNING** ◁ / ▷（または ⑧**TUNING** △ / ▽）を押してノーマルチューニングモードに切り替えてから操作を行ってください。
- 受信範囲外の周波数を入力した場合、フロントパネルディスプレイに「Wrong Station!」と表示されます。入力した周波数が正しいかご確認ください。

FM/AM 放送局を登録して使用する（プリセットチューニング）

FM/AM 放送局は 40 局まで登録（プリセット）できます。「オートプリセット」または「マニュアルプリセット」のいずれかの方法で放送局を登録してください。

オートプリセットで登録する

電波の強い放送局を検出し、自動的に 40 局まで登録します。AM 放送局は自動で登録できません。マニュアルプリセットで登録を行ってください。

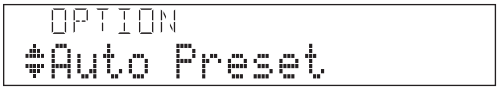
1 ⓃINPUT を繰り返し押して（または ⑦TUNER を押して）、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 リモコンの ⑬OPTION を押す。

フロントパネルディスプレイにチューナー入力のオプション設定を行うオプションメニューが表示されます。

- オプションメニューについて詳しくは、38 ページをご覧ください。
- オプションメニューは、モニター機器にも表示されます。

3 リモコンの ⑭ カーソル △ / ▽ を使って「Auto Preset」を選択し、⑭ENTER を押す。



約 5 秒後に、周波数の最小値から高い周波数に向かってオートプリセットを開始します。

- 下記の表示が行われている間、リモコンの ⑧**PRESET** △ / ▽ または ⑭ **カーソル** △ / ▽ を押すと、オートプリセットを開始するプリセット番号を指定できます。
- 登録を中止したい場合は、リモコンの ⑭**RETURN** を押してください。



オートプリセットの実行中、登録が行われるたびにフロントパネルディスプレイ上段の表示が「READY → SEARCH → MEMORY」の順に変わります。
登録完了すると「FINISH」と表示され、自動的にオプションメニューに戻ります。リモコンの ⑬**OPTION** を押すと、元の状態に戻せます。

マニュアルプリセットで登録する

AM 放送局や、電波の弱い FM 放送を手動で登録します。

1 「FM/AM 放送を受信する」（32 ページ）を参考にして、放送局を受信する。

2 Ⓓ MEMORY（または ⑧MEMORY）を押す。
フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示され、しばらくすると登録先となるプリセット番号が表示されます。

- Ⓓ**MEMORY**（または ⑧**MEMORY**）を 2 秒以上押し続けると、手順 3 を省略して前回登録した次のプリセット番号に放送局が登録できます。

3 Ⓔ PRESET ◁ / ▷（または ⑧PRESET △ / ▽）を押して、登録先となるプリセット番号を選択する。
空のプリセット番号を選ぶと「Empty」と表示されます。登録済みのプリセット番号を選んだ場合は、プリセット番号の右側に登録された周波数が表示されます。



- ⑲ **数字キー**を使ってプリセット番号を選択することもできます。

4 登録を行うには、もう一度 Ⓓ MEMORY（または ⑧MEMORY）を押す。
登録が終わると、元の表示に戻ります。

- リモコンの ⑭**RETURN** を押す（または約 30 秒間操作をしない）と、登録を中止できます。

登録した放送局を呼び出す（プリセットチューニング）

オートプリセットまたはマニュアルプリセットで登録した放送局を呼び出します。

Ⓔ PRESET ◁ / ▷（または ⑧PRESET △ / ▽）を押して、プリセット番号を選択する。

- 登録されていないプリセット番号はスキップされます。
- すべてのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」または「No Presets in Memory」と表示されます。
- プリセット番号の選択中は、⑲ **数字キー**を押してダイレクトにプリセット番号を指定できます。未登録のプリセット番号を入力した場合は「Empty」、無効な番号を入力した場合は「Wrong Num.」と表示されます。
- ノーマルチューニング中、⑲ **数字キー**を押すとプリセット番号が選択されます。Ⓔ**PRESET** ◁ / ▷（または ⑧**PRESET** △ / ▽）を押してプリセットチューニングモードに切り替えてから操作を行ってください。

プリセット放送局の登録を解除する

1 Ⓝ INPUT ◁ / ▷ を繰り返し押して（または ⑦TUNER を押して）、入力ソースを「TUNER」に切り替える。

2 リモコンの ⑬OPTION を押す。
フロントパネルディスプレイにチューナー入力のオプション設定を行うオプションメニューが表示されます。

3 ⑭ カーソル △ / ▽ を使って「Clear Preset」と表示させ、⑭ENTER を押す。
次の画面が表示されます。



- リモコンの ⑭**RETURN** を押すと、操作を中止してオプションメニューに戻すことができます。

4 ⑭ カーソル △ / ▽ を使って登録を解除したいプリセット番号を選び、⑭ENTER を押す。
選択したプリセット番号が登録解除されます。
複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。
操作を終了するには、⑬**OPTION** を押してください。

基本操作

iPod を再生する

リアパネルの DOCK 端子に接続したヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（別売 YDS-11 など）に iPod をセットすれば（20 ページ）、iPod を本機のリモコンで操作したりモニター画面に表示されるメニューを見ながら操作したりすることができます。また、コンプレストミュージック・エンハンサーモードを選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をダイナミックな音声で再生できます（30 ページ）。

ご注意

- iPod touch、iPod（iPod classic を含むクリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンにより一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの種類により一部の機能が使えない場合があります。ここでは YDS-11 を使って説明します。

- 本機と iPod との接続が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示されます。
- フロントパネルディスプレイやモニター画面に表示されるメッセージについては「iPod」をご覧ください（56 ページ）。

iPod の操作

iPodを専用のユニバーサルドックにセットして本機の入力ソースを DOCK に切り替えると、iPod を操作できます。
iPod の再生方法には、モニターに表示されるメニューを見ながら操作する「メニュー表示モード」と、iPod の画面を見ながら操作する「ノーマルモード」の 2 種類があります。
本機に iPod を接続した場合は、リモコンを使って次の操作が行えます。

	キー	機能
⑭	ENTER	選んだメニューに入ります。
	△	上のメニューにカーソルを移動します。
	▽	下のメニューにカーソルを移動します。
	◁	1 つ前の表示に戻ります。
	▷	選んだメニューに入ります。
⑱	◁◁	巻き戻しします（長押し）。
	▷▷	早送りします（長押し）。
	▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
	|◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。
	□	再生を停止します。
	▯▯	一時停止します（ノーマルモード時は再生 / 一時停止）。
	▷	再生します（ノーマルモード時は再生 / 一時停止）。
⑯	DISPLAY	メニュー表示モードとノーマルモードを切り替えます。

ノーマルモードで操作する

ノーマルモードでは、モニター画面にメニューを表示させずに、リモコンを使って基本的な操作（再生、停止、スキップなど）ができます。ノーマルモードの動作中は iPod 本体でも操作が行えます。

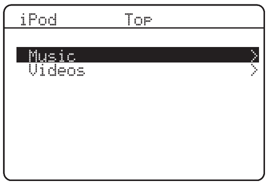
メニュー表示モードで操作する

モニター画面に表示されるメニューを見ながら、本機のリモコンを使ってさまざまな操作ができます。モニターで音楽ファイルや映像ファイルをブラウズしたり、お好みに合わせて設定を変更したりすることもできます。メニュー表示モードの動作中、iPod 本体は操作できません。

- 本機では英数字のみ表示されます。日本語などの表示できない文字は「__」（アンダーバー）で表示されます。

1 ⓃINPUT ◁ / ▷（または ⑦DOCK）を使って入力ソースを「iPod（DOCK）」に切り替える。

2 リモコンの ⑯DISPLAY を押す。
モニターにメニュー画面が表示されます。



3 ⑭ カーソル △ / ▽ を押して「Music」、または「Videos」を選び、⑭ カーソル ▷ を押す。
- 音楽ファイルをブラウズするには「Music」を選びます。
- 映像ファイルをブラウズするには「Videos」を選びます。

ご注意

- iPod、およびヤマハ製 iPod ユニバーサルドックが映像ファイルのブラウズ機能に対応していない場合、「Videos」は表示されません。

4 ⑭ カーソル △ / ▽ /◁ / ▷ を押してメニュー項目を選び、⑭ENTER を押して再生する。

「Music」の選択項目

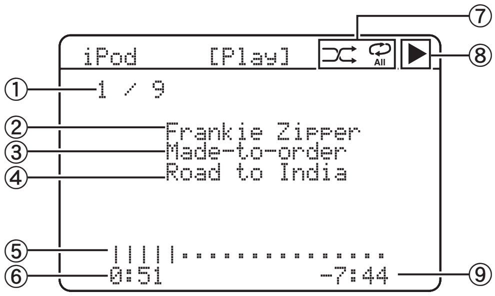
Playlists（プレイリスト）、Artists（アーティスト）、Albums（アルバム）、Songs（曲名）、Genres（ジャンル）、Composers（作曲者）

- Playlists > Songs
- Artists > Albums > Songs
- Albums > Songs
- Songs
- Genres > Artists > Albums > Songs
- Composers > Albums > Songs

「Videos」の選択項目

iPod に保存されているファイルにより異なります。

■ 再生情報画面の表示



① トラック番号 / トラック数
② アーティスト名
③ アルバム名
④ 曲名
⑤ 進捗表示
⑥ 経過時間
⑦ シャッフル / リピート表示
⑧▶（再生）、❚❚（一時停止）、▶▶（早送り）、◀◀（巻き戻し）
⑨ 残り時間

- ⓒ**INFO**（または ⑨**INFO**）を押すと、フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えできます（27 ページ）。表示される項目は、現在選んでいるモードによって変わります。

シャッフル / リピート再生を行う

シャッフル再生（Shuffle）やリピート再生（Repeat）などの特殊な再生はオプションメニューの設定を切り替えることで行うことができます。

1 入力ソースとして「iPod（DOCK）」が選ばれているときに、⑯DISPLAY を押して、メニュー表示モードに切り替える。

オプションメニューは、メニュー表示モードのときにのみ表示できます。シャッフル / リピート再生を行う場合は、あらかじめメニュー表示モードに切り替えてください。

2 ⑬OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

3 ⑭ カーソル △ / ▽ を押してお好みの再生方法（Shuffle または Repeat）を選び、⑭ENTER を押す。

選んだ再生方法に応じて次の中から再生方法を選択できます。

Shuffle：曲やアルバムをランダムに再生します（選択項目：Off、Songs、Albums）。

- ランダム再生しない場合は「Off」を選んでください。
- 曲ごとにランダム再生する場合は「Songs」を選んでください。
- アルバムごとにランダム再生する場合は「Albums」を選んでください。

Repeat：曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します（選択項目：Off、One、All）

- リピート再生しない場合は「Off」を選んでください。
- 曲ごとにリピート再生する場合は「One」を選んでください。
- すべての曲をリピート再生する場合は「All」を選んでください。

4 ⑭ カーソル ◁ / ▷ を使って好みの設定を選ぶ。

設定内容が確定します。再生を行うと、手順 3 で選択した方法で再生が行われます。元の画面に戻すには、⑭**RETURN** を押してください。再生方法を元に戻したいときは、もう一度同じ操作を行って設定を元に戻してください。

- シャッフル機能がオンのときは、モニター画面に「 」が表示されます。
- 「Repeat」で「One」または「All」を選んでいるときはモニター画面に「 」、または「 」が表示されます。

基本操作

Bluetooth 機器を再生する

本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10 など）を DOCK 端子に接続すれば、本機と Bluetooth 機器（ポータブルオーディオプレーヤーなど）をケーブルで接続することなく、Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを再生できます。再生する前に Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器を「ペアリング」してください。

Bluetooth® レシーバーと Bluetooth® 機器をペアリングする

「ペアリング」とは、Bluetooth で通信するために Bluetooth 機器を登録することです。Bluetooth 機器を Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを使って本機で再生する前に「ペアリング」を行います。本機能をはじめて使う場合や、ペアリングしたデータが消去された場合は、必ず行ってください。

- ペアリングは Bluetooth 機器と Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーをはじめて使うときのみ必要です。
- Bluetooth で通信できるようにするには、本機および Bluetooth 機器の両方でペアリングしてください。必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

■ Bluetooth 機器をペアリングする

セキュリティー確保のため、ペアリングできる時間は 8 分に制限されています。以下の手順を一通り読んでから操作に移ることをおすすめします。

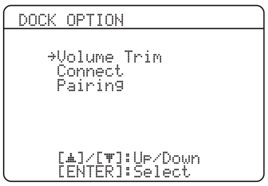
1 ⓃINPUT◁ / ▷（または ⑦DOCK）を使って入力ソースを「Bluetooth（DOCK）」に切り替える。

2 ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源をオンにし、Bluetooth 機器をペアリングモードにする。

Bluetooth 機器の操作方法について詳しくは Bluetooth 機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

3 ⑬OPTION を押す。

DOCK 入力のオプションメニューが表示されます。



4 ⑭ カーソル ▽ を押して「Pairing」を選び、⑭ENTER を押す。

フロントパネルディスプレイに「Searching」と表示され、ペアリングが始まります。

- ペアリングを中止するには ⑭**RETURN** を押します。
- フロントパネルの Ⓓ**MEMORY** を押し続けてペアリングを開始することもできます。

5 Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。

Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識している場合は Bluetooth デバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」（例）と表示されます。

6 Bluetooth デバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。

正しくペアリングされた場合はフロントパネルディスプレイに「Completed」と表示されます。

- ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは 8 台までの Bluetooth 機器とペアリングできます。9 台目の機器が正しくペアリングされ、ペアリングデータが登録された場合、もっとも長い間使われていない機器のデータは消去されます。

Bluetooth® 機器の再生を楽しむ

1 ⓃINPUT◁ / ▷（または ⑦DOCK）を使って入力ソースを「Bluetooth（DOCK）」に切り替える。

2 ⑬OPTION を押す。

3 ⑭ カーソル ▽ を繰り返し押して「Connect」を選び、⑭ENTER を押す。

Connect を実行すると、Bluetooth 機器との通信を有効にできます。接続した Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーが Bluetooth 機器を認識すると、フロントパネルディスプレイに「BT Connected」と表示されます。

- ⑭**ENTER** を押すと、接続した Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは最後に接続していた Bluetooth 機器を検索し、接続します。Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーが Bluetooth 機器を検索できなかった場合はフロントパネルディスプレイに「Not found」と表示されます。
- Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続を解除するにはもう一度オプションメニューを表示させ、「Disconnect」を選択して ⑭**ENTER** を押してください。

4 Bluetooth 機器の再生を開始する。

その他の機能

一定時間後にスタンバイにする（スリープタイマー）

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定できます。聴きながらおやすみになりたいときに便利です。

リモコンの ⑤SLEEP を繰り返し押して時間を設定する。
キーを押すたびに、下記のように設定が切り替わります。

```
→ Sleep 120min. ——→ Sleep 90min. —┐
└ Sleep Off ← Sleep 30min. ← Sleep 60min. ←┘
```

スリープタイマーを設定すると、フロントパネルディスプレイの SLEEP インジケーターが点灯します。
スリープタイマーを解除するには、フロントパネルディスプレイに「Sleep Off」と表示されるまでリモコンの ⑤**SLEEP** を繰り返し押します。

HDMI コントロール機能を使う

HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビ（一部を除く）と本機を HDMI 接続した場合、テレビのリモコンで本機の以下の機能を操作できます。

- 電源のオン / スタンバイ（テレビ連動）
- 音量の調節（上 / 下、消音）
- 音声を出力する機器の切り替え（テレビ ↔ 本機）

> HDMI コントロール機能を使用する場合は、テレビの取扱説明書を参照して下記の内容も合わせてご覧ください。
> – テレビ側の設定で、HDMIを使ったコントロール機能を有効にする
> – AV アンプとの接続方法に従って、本機とテレビを接続する

- 各社の HDMI コントロール機能の対応状況については、弊社ホームページをご覧ください。
- HDMI を使ったコントロール機能に対応している DVD レコーダー / ブルーレイレコーダー / HD DVD レコーダー（一部を除く）を HDMI 接続している場合は、それらの機器も連動して操作できます。詳しくは DVD レコーダー / ブルーレイレコーダー / HD DVD レコーダーの取扱説明書をご覧ください。
- テレビや DVD レコーダー/ ブルーレイレコーダー/ HD DVD レコーダーは、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。

1 HDMI を使ったコントロール機能に対応しているテレビと本機を HDMI 接続する。

2 HDMI 接続しているすべての機器の電源をオンにする。
外部機器の操作について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

3 HDMI 接続しているすべての機器の設定を確認し、コントロール機能を有効にする。
セットアップメニューを表示して HDMI 関連設定の「Control」（47 ページ）を「On」に設定してください。外部機器の設定について詳しくは、お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

- 手順 1 ～手順 3 までは、一度操作すれば 2 回目以降は必要ありません。

4 テレビの電源をオフにする。

5 HDMI 接続している、テレビ以外の機器の電源がオンになっていることを確認する。
オフになっている場合は、オンにしてください。

6 テレビの電源をオンにする。

7 テレビの入力を、本機に接続した入力（[HDMI1] など）に切り替える。

8 本機の入力を、DVD レコーダーまたはブルーレイレコーダーに切り替えて、レコーダーの画像が正しく映るかを確認する。

9 テレビのリモコンで、本機の電源オン / スタンバイや音量の調節、音声出力機器の切り替えなどの操作をする。

ご注意

- 本機が動作しない場合は、以下のことをご確認ください。テレビの電源をオン / オフしたり、電源プラグをコンセントに接続し直したりすると、正常に動作する場合もあります。
  – HDMI コントロール機能（47 ページ）が「On」に設定されている
  – テレビ側のHDMIコントロール機能がオンに設定されている

- モニター機器が HDMI コントロール機能に対応している場合、本機とモニター機器の HDMI コントロール機能をオンにすると、モニター機器の入力切り替えに合わせて本機のシーンが自動的に「TV」へ切り替わります。「TV」には AV1 入力が初期設定されており、AV1 の光デジタル端子にモニター機器の音声出力を接続しておけば、すぐに映画やテレビ番組を楽しむことができます。モニター機器の音声出力を AV2-6、AUDIO1-2、V-AUX などに接続した場合は、端子に対応する入力ソースをシーンの「TV」に割り当ててください（25 ページ）。

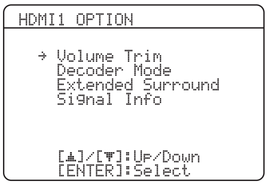
応用操作

入力ソースごとにオプション設定を行う（オプションメニュー）

本機で使用可能な入力ソースには、使用頻度の高い設定項目をまとめたオプションメニューが用意されています。オプションメニューは次の方法で設定できます。

1 ⓃINPUT ◁ / ▷（または ⑦ 入力ソース選択キー）を使って入力ソースを選ぶ。

2 リモコンの ⑬OPTION を押す。
オプションメニューが表示されます。オプションメニューは入力ソースに応じて表示される項目が異なります。詳しくは次の項目をご覧ください。



3 ⑭カーソル△ / ▽を使って操作/設定したい項目を選び、⑭ENTER を押す。
選択した項目の内容が表示されます。

4 ⑭ カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ / ENTER を使って、選択した設定値を調節（または機能を実行）する。
選択した項目の詳細が表示されます。操作可能な内容は選択した項目に応じて変わります。

5 オプションメニューを終了するには、⑬OPTION を押す。
⑭RETURNを押して 1 つ前の表示に戻したり、オプションメニューを終了することも可能です。

- オプションメニューを終了した直後、⑭ **カーソル**などのキーが動作しない場合は、選択中の入力ソースをもう一度選択し直してください。

オプションメニュー項目一覧

各入力ソースには、次のようなメニューアイテムがあります。

入力ソース	メニュー項目			
HDMI1-4	Volume Trim	Decoder Mode	Extended Surround	Signal Info
AV1-4	Volume Trim	Decoder Mode	Extended Surround	Signal Info
AV5-6	Volume Trim			
AUDIO 1-2	Volume Trim			
V-AUX	Volume Trim			
TUNER	Volume Trim	FM Mode	Auto Preset	Clear Preset
iPod (DOCK)	Volume Trim	Shuffle	Repeat	
Bluetooth (DOCK)	Volume Trim	Connect/ Disconnect	Pairing	

各メニュー項目の内容は次のとおりです。

- 「*」のついた項目は、初期設定を表します。

Volume Trim

入力ソース： 全入力ソース
設定範囲： -6.0dB ～ 0.0dB* ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

入力ソース間の音量差を補正することで、入力を切り替えたときの音量の変化を防ぎます。このパラメーターは入力ソースごとに設定できます。

Decoder Mode

入力ソース： HDMI1-4、AV1-4
選択項目： Auto*/DTS/AAC

再生するデジタル音声信号を AAC、または DTS に固定します。

Auto	自動的に音声入力信号を選びます。
DTS	DTS 信号に固定します。DTS 信号以外の信号が入力されても再生されません。
AAC	AAC 信号に固定します。AAC 信号以外の信号が入力されても再生されません。

Extended Surround

入力ソース： HDMI1-4、AV1-4
選択項目： Auto*/PLIIxMovie/PLIIxMusic/EX/ES/Off

サラウンドバックスピーカーの使用時、マルチチャンネルの入力ソースを6.1 または7.1 チャンネルで再生するかどうかを切り替えます。

Auto	サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無により、最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
PLIIx Movie	サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に PLIIx Movie デコーダーを使って 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生します。サラウンドバックスピーカーを2つ接続しているときに選択できます。
PLIIx Music	サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に PLIIx Music デコーダーを使って 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生します。サラウンドバックスピーカーを接続しているときに選択できます。
EX/ES	サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、最適なデコーダーを自動的に選び、常に 6.1 チャンネルで再生します。
Off	サラウンドバックチャンネルを生成するフラグの有無にかかわらず、常に 5.1 チャンネルで再生します。

Signal Info

入力ソース： HDMI1-4、AV1-4

音声および映像入力信号の各種情報をモニターやフロントパネルディスプレイに表示します。フロントパネルの表示は、⑭ **カーソル** △ / ▽ を押して切り替えできます。

Signal Info パラメーター一覧

■ 音声情報

表示	内容
Format	デジタル音声のフォーマットを表します。
Channel	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント / サラウンド / LFE）。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。 上記の方法で表現できないチャンネルを含んでいる場合は、「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されることがあります。
Sampling	デジタル入力信号のサンプリング周波数を表示します。
Bitrate	入力信号の 1 秒あたりのビットレートを表します。

ご注意

- 信号が入力されていない場合は「No Signal」、本機が認識できない信号が入力されている場合は「---」と表示されます。
- ビットレートは再生中に変化する場合があります。

■ 映像情報

表示	内容
In	映像入力信号の種類と解像度を表します。
Out	映像出力信号の種類と解像度を表します。
Message	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。エラーメッセージの内容は下記をご覧ください。

HDMI エラー情報（エラー発生時のみ）

HDCP Error	HDCP の認証に失敗しました。
Device Over	制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。
Out of Res.	モニターが映像入力信号の解像度に対応していません。

応用操作

FM Mode

入力ソース： TUNER
選択項目： Stereo*/Mono

FM 放送の受信方法を選択します。

Stereo	ステレオで受信します。
Mono	モノラルで受信します。モノラルを選ぶと、受信感度が向上します。

Auto Preset

入力ソース： TUNER

FM の周波数帯に含まれる放送局を自動検出して、プリセット局として順次登録します（32 ページ）。

Clear Preset

入力ソース： TUNER

プリセット局を登録解除します（33 ページ）。

Shuffle

入力ソース： iPod（DOCK）
選択項目： Off*/Songs/Albums

シャッフル再生の動作を切り替えます（35 ページ）。

Repeat

入力ソース： iPod（DOCK）
選択項目： Off*/One/All

リピート再生の動作を切り替えます（35 ページ）。

Connect / Disconnect

入力ソース： Bluetooth（DOCK）

Bluetooth 機器との通信の有効 / 無効を切り替えます（36 ページ）。

Pairing

入力ソース： Bluetooth（DOCK）

本機とBluetooth機器をペアリングします（36ページ）。

サラウンドデコーダー / 音場プログラムを編集する

音場プログラムと組み合わせるデコーダーを選ぶ

音場プログラムの MOVIE を使用する場合は、音場プログラムを編集して組み合わせるサラウンドデコーダーを下記の中から選択できます。音場プログラムの変更方法については、次の項目をご覧ください。

音場プログラムと組み合わせ可能なデコーダー

- PLIIx Movie（PLII Movie）
- Neo:6 Cinema

ご注意

- MOVIE 系音場プログラムのうち、下記のプログラムはサラウンドデコーダーと組み合わせできません。
  – Mono Movie
  – Sports
  – Action Game
  – Roleplaying Game

音場パラメーターを調節する

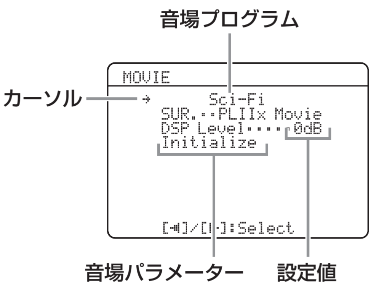
音場プログラムは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場の要素（パラメーター）を調節することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果やデコーダーをアレンジできます。

- セットアップメニューの「Memory Guard」（49 ページ）を「On」に設定しているときは、音場パラメーターの変更は保護されます。変更する前に「Off」に設定してください。

1 本機に接続したモニターの電源をオンにする。

2 リモコンの ⑫SETUP を押す。
モニターにセットアップメニューが表示されます。

3 ⑭ カーソル △ / ▽ 押して「DSP Parameter」を選択し、⑭ENTER を押す。
表示が次のように変わります。



4 ⑭ カーソル △ / ▽ を押して音場プログラムに「→」を合わせ、⑭ カーソル ◁ / ▷ を押して音場プログラムを選ぶ。

5 ⑭ カーソル △ / ▽ を押して変更したいパラメーターを選び、⑭ カーソル ◁ / ▷ を押して設定値を調節する。
初期設定値を変更すると、モニターに表示されている音場パラメーター名の左側にアスタリスク（∗）が表示されます。音場パラメーターの機能や調節範囲について詳しくは、次の項目をご覧ください。

- 他の音場パラメーターの設定を変更する場合は、手順 3 と手順 4 を繰り返してください。

6 編集を終了するには、⑭RETURN を押す。

選んだ音場プログラムのパラメーターを初期設定に戻すには、⑭ **カーソル** ▽ を繰り返し押して「Initialize」を選び、⑭ **カーソル** ▷ を押します。確認画面がモニター画面に表示されたら、⑭ **カーソル** ▷ を押して確定するか、⑭ **カーソル** ◁ **を**押してキャンセルしてください。

音場パラメーターについて

- 「∗」は初期設定値を表します。

CINEMA DSP で調節可能なパラメーター

DSP Level

設定範囲： -6dB ～ 0dB* ～ +3dB

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境に合わせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。「DSP Level」は以下のように調節してください。

- 効果音が小さく感じられる
- 各音場プログラム間の違いが感じ取れない
  → 効果レベルを大きくする

- 音がぼんやりと聴こえる
- 音場効果のかかり具合が過剰に感じられる
  → 効果レベルを小さくする

特定の音場プログラムでのみ使用できるパラメーター

2ch Stereo のみ

Direct

選択項目： Auto*/Off

アナログ音声を入力ソースとして選んでいる場合は、トーンコントロールの状態に応じて、自動的に DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスさせることができます。より高音質な音声を楽しむときに使用します。

Auto　トーンコントロールの「Bass」と「Treble」の両方が 0dB であれば、DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスして出力します。

Off　回路のバイパスを行いません。

7ch Stereo のみ

CT Level / SL Level / SR Level / SB Level

設定範囲： 0 ～ 100%

7ch Stereo プログラムでの、センター（CT）、サラウンド L（SL）、サラウンド R（SR）、サラウンドバック（SB）の各チャンネルの音量を調節します。各チャンネルスピーカーの有無により設定できるパラメーターは変化します。

Straight Enhancer/7ch Enhancer のみ

Effect Level

選択項目： High*/Low

コンプレストミュージック・エンハンサーモードの効果を調節します。高音域が過剰に強調されているときは、「Low」に設定してください。さらに効果を強くするときは「High」に設定します。

デコーダーパラメーター

以下のデコーダーパラメーターを使って、デコーダーによる効果をカスタマイズできます。デコーダーの種類については 30 ページをご覧ください。

PLIIx Music / PLII Music 選択時

Panorama

選択項目： Off*/On

フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント L/R の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

Dimension

設定範囲： -3 ～ STD*（スタンダード）～ +3

フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

Center Width

設定範囲： 0 ～ 3* ～ 7

センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けることができます。0 にするとセンターのみ、7 にするとフロント L/R からのみセンター音声が出力されます。

Neo:6 Music 選択時

C.Image

設定範囲： 0.0 ～ 0.3* ～ 1.0

フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。

本機の各種設定を行う（セットアップメニュー）

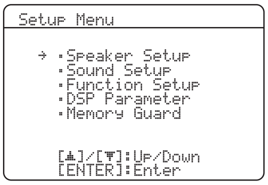
リモコンを使ってセットアップメニューを呼び出し、各種の詳細設定を変更できます。
セットアップメニューでは、下記の設定を変更できます。詳しい内容については、「セットアップメニューの基本操作」をご覧になったうえで、対応するページをご覧ください。

メニュー / サブメニュー	機能	ページ
Speaker Setup	スピーカーに関する各種設定を行います。	44
1 Auto Setup	スピーカーの出力特性を自動調整します。	44
2 Manual Setup	スピーカーの出力特性を手動で設定します。	44
A) Config	スピーカーの有無や大きさなどを使用環境に合わせて設定します。	44
B) Level	スピーカーごとに音量バランスを調節します。	46
C) Distance	スピーカーの設置距離に合わせて、音声信号の出力タイミングを調節します。	46
D) Equalizer	イコライザーを使ってスピーカー出力を調整します。	46
E) Test Tone	テストトーンを出力します。	46
Sound Setup	音声出力に関する各種設定を行います。	46
1 Dynamic Range	スピーカーやヘッドホン使用時のダイナミックレンジを設定します。	46
2 Lipsync	映像と音声の出力タイミングのずれを補正します。	47
HDMI Auto	HDMI 端子から入力される映像と音声の出力タイミングのずれを自動的に補正するかまたはしないかを設定します。	47
Auto Delay	HDMI Auto で設定された補正時間を微調整します。	47
Manual Delay	映像と音声の出力タイミングのずれを手動で補正します。	47
Function Setup	HDMI 関連の設定やディスプレイ表示などを設定します。	47
1 HDMI	HDMI 入出力に関する各種設定を行います。	47
Control	HDMI を使ったコントロール機能のオン / オフを切り替えます。	47
Standby Through	本機がスタンバイのときに、HDMI 端子から入力された HDMI 信号を出力するかまたはしないかを設定します。	47
Audio Output	HDMI の音声信号を本機で再生するか、他の機器で再生するかを選択します。	47
Resolution	アナログ映像信号を HDMI 信号へ変換するときの解像度を設定します。	48
Aspect	アナログ映像信号を HDMI 信号へ変換するときのアスペクト比を設定します。	48
2 Display	モニターやフロントパネルディスプレイの表示に関する各種設定を行います。	48
Dimmer	フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。	48
FL Scroll	フロントパネルディスプレイ表示される文字の表示方法を設定します。	48
OSD Shift	モニターに表示される文字の上下位置を調節します。	48
3 Volume	本機の音量に関する各種設定を行います。	48
Adaptive DRC	本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。	48
Max Volume	音量が間違って上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。	48
Init. Volume	電源をオンにしたときの音量を設定します。	49
4 Input Rename	モニター画面やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。	49
DSP Parameter	音場プログラムのパラメーターを変更します。	49
Memory Guard	誤操作によって設定値が変更されないようにセットアップメニューを保護します。	49

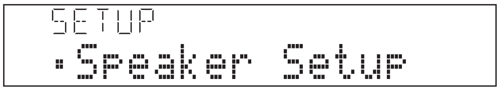
セットアップメニューの基本操作

セットアップメニューは、モニターの画面（OSD）とフロントパネルディスプレイの両方に表示されます。

モニター画面表示



フロントパネルディスプレイ



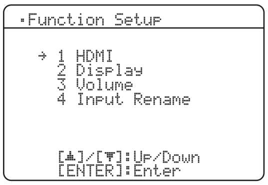
ここではモニターを見ながら設定する方法を例にあげ、操作方法を説明します

1 リモコンの ⑫SETUP を押す。

セットアップメニューが表示されます。

2 ⑭ カーソル △/▽ を使ってメニューの種類を選択し、⑭ENTER を押す。

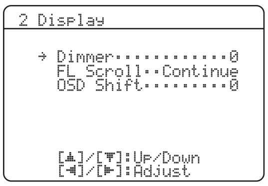
選択したメニューの内容が表示されます。たとえば「Function Setup」を選んだ場合は次の表示に変わります。



- ⑭**RETURN**を押すと、1つ前の表示に戻すことができます。

3 さらにサブメニューを選択する場合は、⑭ カーソル △/▽ を使って設定したいメニューを選択し、⑭ENTER を押す。

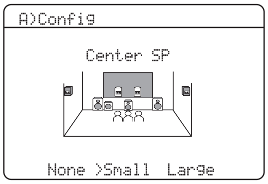
たとえば「2 Display」を選んだ場合は次のように表示されます。



4 ⑭ カーソル △/▽ を押して項目を選び、⑭ カーソル ◁ / ▷ を押して設定したい項目を変更する。

Speaker Setup メニューの Manual Setup サブメニューには、1 項目で 1 画面を使用するものがあります。カーソル ⑭ **カーソル** △/▽ を押すと、表示を切り替えて、同じメニュー内の他の項目を表示できます。

A) Config の例



- 手順 4 を繰り返すと、複数の項目の設定を変更できます。

5 設定を終えるには、⑫SETUP を押します。

- セットアップメニューを終了した直後、⑭ **カーソル**などのキーが動作しない場合は、選択中の入力ソースをもう一度選びなおしてください。

Speaker Setup

スピーカーに関する各種設定を行います。自動調整を行う「Auto Setup（YPAO）」と手動調整を行う「Manual Setup」の 2 種類があります。

- 「*」は初期設定を表します。

1 Auto Setup

お使いのスピーカーの配置や性能、リスニングルームの音響特性を測定し、最適なバランスで出力されるようスピーカーの出力特性を自動調整します。操作方法については 22 ページをご覧ください。

2 Manual Setup

パラメーターを手動で調節して、スピーカーの出力特性を調整します。Auto Setup（YPAO）の実行後は、このメニュー以下の項目で自動調整された結果を確認できます。必要であれば、各項目の設定を好みに合わせて微調整してください。

■ A)Config

接続しているスピーカーの有無や大きさ（再生能力など）を使用環境に合わせて設定します。

- スピーカー設定には、スピーカーの大きさ（Large または Small）を設定する項目があります。これらの設定を行う場合、スピーカーのウーファー部の口径が 16cm 以上の場合は「Large」、16cm 以下の場合は「Small」を目安にしてください。

LFE/Bass Out

選択項目：SWFR / Front / Both*

LFE（低域効果音）チャンネルや他のチャンネルの低音域成分を出力するスピーカーを設定します。設定値を選んだ場合の動作は次のとおりです。

LFE チャンネルの信号

選択項目	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
Both	出力する	出力しない	出力しない
SWFR	出力する	出力しない	出力しない
Front	出力しない	出力する	出力しない

他チャンネルの低音域成分

選択項目	サブウーファー	フロントスピーカー	その他のスピーカー
Both	[1]	[2]	[3]
SWFR	[4]	[3]	[3]
Front	出力しない	[1]	[3]

[1] フロント L/R チャンネルと、スピーカーの大きさを「Small」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。
[2] フロント L/R チャンネルの低音域成分を出力します。
[3] スピーカーの大きさが「Large」に設定されている場合に低音域成分を出力します。
[4] スピーカーの大きさを「Small」に設定したチャンネルの低音域成分を出力します。

Front SP

選択項目：Small / Large*

フロント L/R スピーカーのサイズを設定します。

Small　スピーカーが小さい場合に選択します。フロント L/R チャンネルの低音域成分は、サブウーファーから出力されます。

Large　スピーカーが大きい場合に選択します。

ご注意

- 「LFE/Bass Out」を「Front」にした場合、「Large」のみ選択できます。フロントスピーカーのサイズが「Small」のときに「LFE/Bass Out」を「Front」に切り替えると、自動的に「Large」に切り替わります。

Center SP

選択項目：None / Small* / Large

センタースピーカーのサイズを選択します。

None　センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの信号はフロントL/Rスピーカーに振り分けられます。

Small　センタースピーカーが小さい場合に選択します。センターチャンネルの低音域成分は、サブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）から出力されます。

Large　センタースピーカーが大きい場合に選択します。

Sur. L/R SP

選択項目：None / Small* / Large

サラウンド L/R スピーカーのサイズを選択します。

None　サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドチャンネルの信号はフロントL/Rスピーカーに振り分けられます。この設定を選ぶと「Sur.B L/R SP」が自動的に「None」に切り替わります。

Small　サラウンドスピーカーが小さい場合に選択します。サラウンドチャンネルの低音域成分は、サブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）から出力されます。

Large　サラウンドスピーカーが大きい場合に選択します。

- 「None」を選択した場合、音場プログラムの動作がバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

Sur.B L/R SP

選択項目：None / SMLx1 / SMLx2* / LRGx1 / LRGx2

サラウンドバック L/R スピーカーのサイズを選択します。

None　サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選びます。サラウンドバックチャンネルの信号はサラウンドL/Rスピーカーおよびサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）に振り分けられます。

SMLx1　小さいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。

SMLx2　小さいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。

LRGx1　大きいサラウンドバックスピーカーを１つ接続している場合に選びます。

LRGx2　大きいサラウンドバックスピーカーを２つ接続している場合に選びます。

ご注意

- 「None」を選択した場合、サラウンドデコーダーの PLIIx Movie、PLIIx Music、PLIIx Game は選択できません。

Crossover Freq.

選択項目：40Hz / 60Hz / 80Hz* / 90Hz / 100Hz / 110Hz / 120Hz / 160Hz / 200Hz

スピーカーサイズが「Small（SMLx1/SMLx2）」に設定されたスピーカーから出力される、低音域成分の下限周波数を設定します。設定値よりも低い周波数の信号は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

Subwoofer Phase

選択項目：Normal* / Reverse

低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を設定します。

Normal　サブウーファーの位相を反転しません。
Reverse　サブウーファーの位相を反転します。

■ B)Level

設定範囲：-10.0dB ～ +10.0dB（0.5dB 単位）
初期値：「FR.L / FR.R / SWFR」0dB
「CNTR / SUR.L / SUR.R / SBL / SBR」-1.0dB

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量を個別に調節します。表示される項目は、使用するスピーカーの数に応じて変わります。

- サラウンドバックスピーカーが 1 つの場合は「SBL」「SBR」の代わりに「SB」と表示されます。
- 「Test Tone」（46 ページ）を「On」に設定すると、テストトーンを聞きながら調節できます。
- お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）、クロスオーバー周波数を最大に設定してください。

■ C)Distance

各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう、スピーカーごとに音が出るタイミングを調節します。はじめに単位（UNIT）を設定してから、各スピーカーの距離を設定します。

Unit

選択項目：meters (m)* / feet (ft)

meters (m)　スピーカーの距離をメートルで表示します。
feet (ft)　スピーカーの距離をフィートで表示します。

Front L / Front R / Center / Sur. L / Sur. R / Sur.B L / Sur.B R / SWFR

設定範囲：0.30m ～ 24.00m（1.0 ～ 80.0ft）
初期値：「Front L / Front R / SWFR」3.00m（10.0ft）
「Center」2.60m（8.5ft）
「Sur. L / Sur. R / Sur.B L / Sur.B R」2.40m（8.0ft）

- 表示される項目は、「A)Config」（44 ページ）の設定に応じて変わります。
- サラウンドバックスピーカーが 1 つの場合は「Sur.B L」「Sur.B R」の代わりに「Sur. B」と表示されます。

■ D) Equalizer

パラメトリックイコライザーやグラフィックイコライザーを使って、音色を調節します。

EQ Type Select

選択項目：Auto PEQ / GEQ* / Off

イコライザーの種類を選択します。

Auto PEQ　「1 Auto Setup」で設定した、パラメトリックイコライザーを使用します。「Auto PEQ」の下に、現在適用されているパラメトリックイコライザーの特性（23 ページ）が表示されます。
Auto Setup が行われていない場合、この項目は表示されません。

GEQ　グラフィックイコライザーを使って音色を調節します。調節メニューを表示するには、⑭**ENTER** を押します。

Off　イコライザーを使いません。

GEQ

選択項目：63Hz / 160Hz / 400Hz / 1kHz / 2.5kHz / 6.3kHz/ 16kHz
設定範囲：-6.0dB ～ 0dB* ～ +6.0dB（0.5dB 単位）

スピーカーごとにグラフィックイコライザーを使って音質を調節します。本機のグラフィックイコライザーは 7 つの周波数帯域を調節できます。
「→」が「Channel」にあるときに ⑭ **カーソル** ◁ / ▷ を押すと対象となるスピーカーを選択できます。
⑭ **カーソル** △ / ▽ を押すと調節する周波数帯域の選択、⑭ **カーソル** ◁ / ▷ を押すと設定値の増減が行えます。

■ E)Test Tone

設定値：Off* / On

テストトーンオシレーターの出力オン / オフを切り替えます。スピーカーの音量バランスを調節する場合や GEQ を調節するときに使うと便利です。
⑭ **カーソル** ◁ / ▷ を押して「On」を選んでください。

Off　テストトーンを出力しません。
On　テストトーンを出力します。

Sound Setup

音声出力に関する各種設定を行います。

■ 1 Dynamic Range

選択項目：Min/Auto / STD / Max*

ビットストリーム信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。

Min/Auto　（Min）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。
（Auto）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。

STD　一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

Max　入力された信号を補正せず、そのまま再生します。

■ 2 Lipsync

映像と音声の出力タイミングのずれを調節します。

HDMI Auto

選択項目：Off* / On

リップシンクの自動補正機能に対応しているモニターと本機をHDMI接続している場合に、出力タイミングを自動的に補正します。

Off　モニターが自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合に選びます。補正時間は「Manual Delay」で設定します。
On　モニターが自動補正機能に対応している場合に選びます。必要であれば「Auto Delay」で補正時間を微調節できます。

Auto Delay

設定範囲：0* ～ 240ms（1ms単位）

「HDMI Auto」を「On」に設定したときの補正時間を入力します。「HDMI Auto」を「On」に設定したときの補正時間を微調節します。「Auto Delay」欄には実際に補正される時間、下側の「Offset」欄にはユーザーが調節した時間が表示されます。

Manual Delay

設定範囲：0* ～ 240ms（1ms単位）

補正時間を手動で調整します。モニターがリップシンクの自動補正機能に対応していない場合や、「HDMI Auto」を「Off」に設定している場合に使用します。

Function Setup

HDMI関連の設定やディスプレイ表示などを設定します。

1 HDMI

HDMIに関する各種設定を行います。

■ Control

選択項目：On* / Off

HDMIを使ったコントロール機能に対応している機器と本機をHDMI接続した場合に、HDMIを使ったコントロール機能の有効 / 無効を切り替えます。「On」に設定した場合、本機がスタンバイの状態でも、HDMI1-4端子から入力された信号がモニター機器に出力されます。

On　HDMIコントロール機能を使用します。
Off　HDMIコントロール機能を使用しません。

■ Standby Through

選択項目：On* / Off

本機がスタンバイのときに、HDMI IN端子から入力したHDMI信号をHDMI OUT端子からスルー出力するかしないかを選びます。「On」に設定した場合は、本機がスタンバイの状態でも、HDMI1-4端子から入力された信号をモニター機器に出力できます。
「Control」を「On」に設定しているとき、この項目は表示されません。

On　HDMI入力信号をHDMI OUT端子から出力します。
Off　HDMI入力信号をHDMI OUT端子から出力しません。

- HDMI信号を実際にスルー出力するには、スタンバイに切り替える前に、HDMI1-4のいずれかの入力ソースが選択されている必要があります。
- スルー出力が行われている場合は、フロントパネルディスプレイのHDMI THROUGHインジケーターが点灯します。インジケーターの点灯中は、スタンバイ状態でも1～3Wの電力を消費します。

■ Audio Output

選択項目：Amp* / TV / Amp+TV

HDMI IN端子から入力した音声信号を、本機で再生するか、本機のHDMI OUT端子に接続した機器で再生するかを選びます。「Control」を「On」に設定しているとき、この項目は表示されません。

Amp　本機に接続したスピーカーからHDMI音声信号を出力します。
TV　本機に接続したテレビのスピーカーからHDMI音声信号を出力します。本機に接続したスピーカーの音声はミュートされます。
Amp+TV　本機に接続したスピーカー、本機に接続したテレビのスピーカーの両方からHDMI音声信号を出力します。

応用操作

ご注意

- TV または Amp+TV を選択した場合、本機に接続されたモニター側の仕様に応じて、本機がモニターに出力できる HDMI 音声 / 映像信号の信号フォーマットが変化します。

■ Resolution

選択項目：Through* / 480p / 720p / 1080i / 1080p

アナログ映像入力信号を HDMI 信号に変換するときに、HDMI OUT 端子から出力する HDMI 信号の解像度を変換します。

ご注意

- 720p または 1080i アナログ映像信号は解像度を変換できません。
- 本機とモニターを HDMI 接続している場合、本機は自動的にモニターが対応している解像度を検出します。対応している解像度の左側に「*」（アスタリスク）が表示されます。
- モニターが対応している解像度を本機が検出できない場合は、アドバンスドセットアップメニュー（51 ページ）の「MON.CHK」の設定を「SKIP」に設定してから、もう一度この項目を設定してください。

■ Aspect

選択項目：Thrgh* / 16:9 / Smart

アナログ映像入力信号をビデオコンバージョン機能によって HDMI 信号に変換するときに、HDMI OUT 端子から出力する HDMI 信号の縦横比（アスペクト比）を設定します。

Thrgh　縦横比を変換せずに、元の比率で出力します。

16:9　モニター画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のモニターで最適な映像になるように出力します。

Smart　4：3 の映像の左右を引き伸ばして、16：9 のアスペクト比に変更し、モニターへ出力します。

ご注意

- 「Resolution」が「Thrgh」に設定されている場合、画面のアスペクト比は変更できません。
- アスペクト比が 4：3 以外の映像信号が入力された場合、設定は無効になります。
- HDMI IN 端子から映像信号を入力している場合や、720p、1080i、1080p 信号を入力している場合は、アスペクト比を設定しても効果はありません。

2 Display

モニターやフロントパネルディスプレイの表示に関する設定を行います。

■ Dimmer

設定範囲：-4 ～ 0*

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。設定値を小さくするほどフロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。

ご注意

- 本機がダイレクトモードのときは、設定値を大きくしても表示は明るくなりません。

■ FL Scroll

選択項目：Continue* / Once

フロントパネルディスプレイの表示領域を超える長さの文字を、どのようにスクロール表示するか設定します。

Continue　すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。

Once　すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

■ OSD Shift

設定範囲：-5 ～ 0* ～ +5

モニターに表示される画面の上下位置を調節します。画面を上に移動するには設定値を大きくします。下に移動する場合は設定値を小さくします。

3 Volume

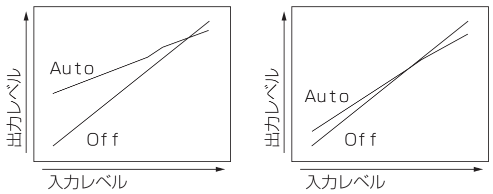
本機の音量に関する各種設定を行います。

■ Adaptive DRC

選択項目：Auto / Off*

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生したり、夜間に再生したりするときに効果的です。この機能を有効にすると、ダイナミックレンジが次のように調節されます。

音量を絞ったとき：
　ダイナミックレンジが狭くなります。
音量を大きくしたとき：
　ダイナミックレンジが広くなります。



音量：小　**音量：大**

Auto　ダイナミックレンジを自動的に調節します。

Off　ダイナミックレンジを自動的に調節しません。

- Adaptive DRC の設定はヘッドホンを使った場合でも有効です。

■ Max Volume

設定範囲：-30.0dB ～ +15.0dB / +16.5dB*（5.0dB 単位）

あやまって音量が上がりすぎないように、音量の最大値を設定します。たとえば「-5dB」に設定した場合、音量は -80.0dB から -5.0dB の範囲で調節できます。初期設定値（+16.5dB）では、最大音量まで出力します。

■ Init. Volume

設定範囲：Off* / Mute / -80dB ～ +16.5dB（0.5dB 単位）

電源をオンにしたときの音量を設定します。「Off」に設定した場合は、前回電源をスタンバイに切り替えたときの音量が設定されます。

ご注意

- 「Max Volume」の設定値が「Init. Volume」の設定値よりも小さい場合、「Max Volume」の設定が優先されます。たとえば「Max Volume」を「-30.0dB」、「Init. Volume」を「0dB」に設定しても、次回電源オン時の音量は自動的に「-30.0dB」に制限されます。

4 Input Rename

フロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を変更します。

⑭ **カーソル** △ / ▽ を使って表示名を変更する入力ソースを選択できます。

テンプレートから表示名を選択する

名前を変更したい入力ソースを選び、⑭ **カーソル** ◁ / ▷ を押して次のテンプレートの中から名称を選びます。

– Blu-ray
– DVD
– SetTopBox
– Game
– TV
– DVR
– CD
– CD-R
– Satellite
– VCR
– Tape
– MD
– PC
– iPod
– HD DVD
–「空欄」

- 独自の表示名がつけられた入力ソースを選んだ場合、テンプレートの名称に加えて現在の名称も表示されます。名称変更をキャンセルしたいときに便利です。

独自の表示名をつける

名前を変更したい入力ソースを選び、⑭**ENTER** を押します。次の操作で 1 文字ずつ文字を指定して、表示名を入力できます。
以下のキーを使って、9 文字以内で文字を入力できます。

⑭ **カーソル** ◁ / ▷ 変更する文字を選択します。
⑭ **カーソル** △ / ▽ 文字の種類を選択します。
⑭**ENTER** 入力した文字を確定します。
入力可能な文字は次のとおりです。
「A ～ Z」、「0～9」、「a ～ z」、「記号（#、*、－、＋など）」、「スペース」

DSP Parameter

音場プログラムのパラメーターを変更します。詳しくは 41 ページをご覧ください。

Memory Guard

選択項目：Off* / On

誤操作によって設定値が変更されないようにセットアップメニューの設定を保護します。

Off 設定を保護しません。
On セットアップメニューの設定（Memory Guard を除く）を保護します。

ご注意

- モニターを使ってセットアップメニューを表示している場合、On を選択すると画面右上に「G」と表示されます。

応用操作

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

本機のリモコンでは、選択している入力ソースごとに異なる外部機器を操作できます。外部機器の操作に利用できるキーは次のとおりです。

④ SOURCE POWER
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

⑭ カーソル、ENTER、RETURN
外部機器のメニュー操作などを行います。

⑯ DISPLAY
外部機器の表示切り替えを行います。

⑱ 外部機器操作キー
外部機器の録画 / 再生などの操作や、メニュー表示キーとして動作します。

⑲ 数字キー
外部機器用の数字キーとして動作します。

⑳ TV 操作キー

INPUT	テレビの映像入力を切り替えます。
MUTE	テレビの音量を一時的に消音します。
TV VOL +/–	テレビの音量を操作します。
TV CH +/–	テレビのチャンネルを切り替えます。
POWER	テレビの電源を切り替えます。

- 実際に外部機器を操作するには、リモコンコードを設定する必要があります。
- 各キーは外部機器側に対応するキーがあるときのみ機能します。

工場出荷時には、各入力ソースに次のようなリモコンコードが割り当てられています。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

■ 工場出荷時のリモコンコード設定

入力ソース	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
[HDMI1]	Blu-ray プレーヤー / レコーダー	Yamaha	2018
[HDMI2]	---	---	---
[HDMI3]	---	---	---
[HDMI4]	---	---	---
[AV1]	---	---	---
[AV2]	---	---	---
[AV3]	CD プレーヤー	Yamaha	5013
[AV4]	---	---	---
[AV5]	---	---	---
[AV6]	---	---	---
[AUDIO1]	---	---	---
[AUDIO2]	---	---	---
[V-AUX]	---	---	---
[TUNER]	チューナー	Yamaha	5007
[DOCK]	DOCK	Yamaha	5011
[A]/[B]	---	---	---

「---」割り当てなし

- シーンの切り替えに合わせて、リモコンで操作する外部機器を自動的に変更することも可能です（25 ページ）。

リモコンコードを設定する

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードについては、巻末に記載の「リモコンコード一覧」をご覧ください。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ③CODE SET を押す。
②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンコードを登録したい入力ソースに対応する ⑦ 入力ソース選択キーを押す。

3 ⑲ 数字キーを押してリモコンコードを入力する。
登録が完了すると、リモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

リモコンコードを初期化する

リモコンに登録されたすべてのリモコンコードを初期化して、工場出荷時の状態に戻します。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ③CODE SET を押す。
②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンの ⑫SETUP を押す。

3 ⑲ 数字キーを押して「9981」と入力する。
初期化が完了すると、リモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

本機の基本設定 / 初期化を行う（アドバンスドセットアップメニュー）

アドバンスドセットアップメニューでは、バイアンプ接続のオン / オフといった本機の基本設定や、ユーザー設定の初期化を行うことができます。次の操作で目的の操作を行ってください。

1 本機の電源をスタンバイに切り替えます。

2 フロントパネルのⓁSTRAIGHTを押しながら、ⒶSTANDBY/ON を押します。

フロントパネルディスプレイにアドバンスドセットアップメニューが表示されます。

```
ADVANCED SETUP
```

3 ⓀPROGRAM ◁ / ▷ を繰り返し押して、次の中から設定したい項目を選択します。

「*」は初期設定を表します。

- 実際のディスプレイ表示は、XXXの部分に設定値が入ります。

REMOTE ID -XXX

選択項目： ID1* / ID2

リモコンの ID を設定します。ヤマハ製 AV レシーバーを複数使用する場合、各レシーバーの ID を同じ設定にすると、1 つのリモコンですべてのレシーバーを操作できます。ID を分けた場合は、それぞれのリモコンで、レシーバーごとに操作が行えます。

BI AMP - XXX

選択項目： ON / OFF*

メインスピーカーをバイアンプ接続で使用するか動作を切り替えます。バイアンプ接続については、16 ページをご覧ください。

MON.CHK - XXXX

選択項目： YES* / SKIP

HDMI OUT 端子に接続したモニターへの出力信号に、解像度変更（アップスケーリング）の制限をかけます。

INIT-XXXXXXXX

選択項目： DSP PARAM / VIDEO / ALL / CANCEL

本機に記憶された各種設定を初期化します。初期化方法は、次の中から選択できます。

DSP PARAM：	音場プログラムの設定
VIDEO：	セットアップメニューで行ったビデオコンバージョン設定（解像度 / アスペクト比）および OSD の表示位置
ALL：	本機を工場出荷時の状態に戻します。
CANCEL：	初期化のキャンセル

4 ⓁSTRAIGHT を何度か押して、目的の設定値を選びます。

ここで選択した内容は、次に電源をオンにしたときに実行されます。手順 3 と 4 を繰り返して、複数の項目を設定することも可能です。

5 ⒶSTANDBY/ON を押して電源を切り、もう一度 ⒶSTANDBY/ON を押します。

手順 4 で行なった設定が反映され、本機の電源がオンになります。手順 3 で初期化を選択した場合は初期化が実行されます。

リモコン ID を設定する

本機のリモコンは、2 つの ID（リモコン ID）からいずれか 1 つを選ぶことができます。本機を設置している部屋で別のヤマハ製アンプをお使いの場合、本機のリモコン ID を切り替えることで、もう 1 台のアンプが動作するのを防止できます。

工場出荷時には、リモコン側、アンプ側ともに ID1 に設定されています。
本機のリモコン ID を切り替えた場合、「Advance Setup」（前項目参照）を表示して必ずアンプ側の ID も切り替えてください。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ③CODE SET を押す。

②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンの ⑫SETUP を押す。

3 希望するリモコン ID コードを入力する。

リモコン ID1 に切り替える場合：
⑲ **数字キー**を押して「5019」と入力します。
リモコン ID2 に切り替える場合：
⑲ **数字キー**を押して「5020」と入力します。

登録が完了すると、コード入力後にリモコンの ②**TRANSMIT** が 2 回点滅します。
リモコンの ②**TRANSMIT** が 6 回点滅した場合は、リモコンコードの入力に失敗したことを表します。もう一度手順 1 からやり直してください。

- リモコンコードを初期化（50 ページ）すると、リモコン ID1 に戻ります。

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、または STANDBY/ON スイッチ（または POWER キー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	21
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	15-17
電源をオフにできない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	19, 20
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体の Ⓝ**INPUT** ◁ / ▷ やリモコンの 7 **入力ソース選択キー**で、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	25
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	15-17
	音量が小さい、または消音されている。	音量を大きくしてください。	25
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—
	セットアップメニューの設定で、HDMI のオーディオ出力がテレビにのみ出力されている。	セットアップメニューの HDMI のオーディオ出力（Function Setup → 1 HDMI → Audio Output）の設定を、「TV」以外に設定してください。	47
	適切なオーディオデコーダーが選ばれていない。	OPTION メニューを表示して、「Decoder Mode」の設定を「Auto」にしてください。	38
映像が出ない	モニター機器側で適切な映像入力が選ばれていない。	モニター側を操作して適切な映像入力を選択してください。	—
	COMPONENT VIDEO 端子から入力された映像信号をコンポジット端子から出力しようとしている。またはコンポジット端子から入力された映像信号を COMPONENT VIDEO 端子から出力しようとしている。	モニター機器が HDMI 接続に対応していない場合は、本機の COMPONENT OUT 端子、コンポジット端子の両方をモニター機器に接続し、モニター機器側の入力切り替えで適切な映像入力を選択してください。	18
	HDMI OUT 端子に接続したモニターが対応していない映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューを表示させ、「INIT」の項目から「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	51
	特殊な信号を入力している。	COMPONENT OUT 端子またはコンポジット端子を使って本機と接続してください。	18

症状	原因	対策	参照ページ
音声が突然出力されなくなる	スピーカーケーブルのショートなどにより、保護回路が働いた。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	15
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	46
センタースピーカーからしか音声が出ない	モノラルソース音場プログラムをかけた場合、使用するサラウンドデコーダーの種類によっては、すべての音声がセンタースピーカーから出力されることがあります。	他の音場プログラムを選択してみてください。	28
特定のスピーカーから音が出ない	該当スピーカーから信号が出力されない設定になっている。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認してください。該当するチャンネルが消灯している場合は以下の項目をご確認ください。 1) 他の入力ソースに切り替えてを試してみてください。 2) 選択中の音場プログラムでは、該当スピーカーから音声は出力されません。他の音場プログラムを選択してみてください。 3) 本機側で、該当するスピーカーがなし（None）に設定されている可能性があります。セットアップメニューのSpeaker Setup を表示して、該当するスピーカーを有効にしてください。	25, 28, 44
	セットアップメニューの Speaker Setup で、該当するスピーカーの音量が最少になっている。	セットアップメニューの Speaker Setup を表示して、スピーカーの音量（Speaker → B)Level）を調節してください。	46
	本機、またはスピーカーが故障している。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認し、該当するスピーカーチャンネルが点灯している場合は、他のスピーカーを接続して、音が出るか確認してください。音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。	—
サラウンドスピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	本体の Ⓛ**STRAIGHT** またはリモコンの ⑩**STRAIGHT** を押してストレートデコードモードをオフにしてください。	31
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	28

症状	原因	対策	参照ページ
サブウーファーから音声が出ない	セットアップメニューの Speaker Setup で LFE チャンネルの設定（LFE/Bass out）を「Front」に設定したまま、Dolby Digital、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「Both」に設定してください。	45
	セットアップメニューの Speaker Setup で LFE チャンネルの設定（LFE/Bass out）を「SWFR」または「Front」に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	「Both」に設定してください。	45
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		
サラウンドバックスピーカーから音声が出ない	OPTION メニューの Extended Surround の設定が Off になっている。または Extended Surround の設定が Auto の状態で、入力されている信号にサラウンドバックのフラグが含まれていない。	Extended Surround の設定を、「Off」および「Auto」以外に設定してみてください。	39
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—
ノイズ / ハムノイズが出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	15-17
	DTS-CD を再生している。	下記の対策を行ってください。 1) ノイズだけが再生される DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。 本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。 2) 再生 / スキップ操作時にノイズが発生する DTS-CD を再生する際に、入力ソース選択後にオプションメニューを表示して「Decoder Mode」を「DTS」に設定してください。	19, 38
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
	「Max Volume」で小さい音量が設定されている。	大きい音量を設定してください。	48
「Memory Guard！」と表示され、設定が変更できない	「Memory Guard」を「On」に設定している。	「Off」に設定してください。	49
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示される	スピーカーケーブルがショートしている。	すべてのスピーカーケーブルが正しく接続されているか確認してください。	15

症状	原因	対策	参照ページ
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
映像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		
使用中に突然電源がスタンバイになる	機器内部の温度が上昇したため、保護回路により電源が切れた。	温度が下がるのを待って（1 時間程度）、電源を入れ直してください。	—

HDMI

症状	原因	対策	参照ページ
音声や映像が出ない	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—

FM/AM 放送の受信

	症状	原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	21
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
			モノラルで受信してください。	40
	FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
	自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
			手動選局、または周波数ダイレクト選局をしてください。	32
AM	自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	—
			手動で選局してください。	32
	オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	33
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、30°以内の範囲で操作してください。	13
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	13
	リモコン側と本体側のリモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	50

症状	原因	対策	参照ページ
外部機器をリモコンで操作できない	リモコンコードが正しく設定されていない。	巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	66
		巻末の「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	66
		⑭ **カーソルキー**などのリモコンキーが動作しない場合は、下記の操作を行なってみてください。 – DVDのディスクメニューなどで操作が行なえない場合：⑦ **入力ソース選択キー**をもう一度押してから操作してください。 – オプションメニュー / セットアップメニューで操作が行なえない場合：表示しているメニューに応じてもう一度該当するメニュー表示キーを押してから操作してください。	
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。		

iPod™

ご注意

• フロントパネルディスプレイやモニター画面に下記のメッセージが表示されない場合は、iPod の接続をご確認ください（20 ページ）。

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod との接続を確認中です。		
	iPod から情報を取得中です。		
Connect error	iPod との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続し直してください。	20
		iPod をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットし直してください。	—
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。	本機は iPod（クリックホイール）、iPod nano、iPod mini に対応しています。	—
iPod Connected	iPod がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに正しく接続されました。		
Disconnected	iPod がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックから取り外されました。	iPod をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに接続してください。	20
Unable to play	何らかの原因で再生できません。	iPod に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—
		再生可能な曲を iPod に保存してください。	—

Bluetooth®

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器がペアリングしています。		
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器が接続を確立しています。		
Completed	ペアリングが完了しました。		
Canceled	ペアリングが中止されました。		
BT Connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		

Auto Setup

ご注意

- エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合、発生している問題を解決してから Auto Setup をやり直してください。
- 「W-2」、または「W-3」が表示された場合、補正はされますが、最適な状態ではありません。
- スピーカーの種類により、スピーカーが正しく接続されていても「W-1」が表示されることがあります。
- 「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

測定開始時の表示

表示	内容	対策	参照ページ
Connect MIC!	オプティマイザーマイクが接続されていません。	オプティマイザーマイクをフロントパネルの OPTIMIZER MIC 端子に接続してください。	22
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。	—
Memory Guard!	本機の設定が保護されています。	「Memory Guard」を「Off」に設定してください。	49

測定中の表示

エラーメッセージ	内容	対策	参照ページ
E-1:NO FRONT SP	フロント L/R チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	15
E-2:NO SUR. SP	サラウンド L/R チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド L/R スピーカーが正しく接続されているか確認してください。	15
E-4:SBR->SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネル成分のみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側の端子に接続してください。	15

エラーメッセージ	内容	対策	参照ページ
E-5:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。	—
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。	—
E-6:CHECK SUR.	サラウンド L/R スピーカーが接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンド L/R スピーカーを接続する必要があります。	15
E-7:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	Auto Setup での測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。	22
E-8:NO SIGNAL	オプティマイザーマイクがテストトーンを検知していません。	オプティマイザーマイクが正しく設置されているか確認してください。	22
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。	15
		オプティマイザーマイク、または OPTIMIZER MIC 端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響サービス拠点にお問い合わせください。	—
		テレビなどのモニター機器と HDMI 接続を行っている場合、HDMI コントロール機能によって本機から音声が出力されないことがあります。モニター機器側を操作して、本機から音声出力できるよう設定（たとえば音声出力先＝アンプなど）してください。	—
E-9:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定を中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。	22
E-10:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。	22

測定終了時の表示

警告メッセージ	原因	対策	参照ページ
W-1:OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。正しく接続されている場合は、このメッセージが表示されても正常に使用できます。	15
W-2:OVER 24m (80ft)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が 24m よりも離れているため、正確に補正できません。	視聴位置の 24m 以内にスピーカーを移動してください。	—
W-3:LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。	—
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。	15
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。	—
		サブウーファーの音量を調節してください。	—

用語／技術解説

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す PB/CB 信号（青色差信号）および PR/CR 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

■ リップシンク（Lip sync）

HDMI 1.3 がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動的に補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動的に検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

■ AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機は AAC デコーダーを搭載しているので、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

■ Deep Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。RGB または YCBCR 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

■ Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surround は、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント L/R チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド L/R）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。
サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ Dolby Digital Surround EX

本機は 5.1 チャンネルのソースに、サラウンドバックチャンネルを加えて6.1/7.1 チャンネル再生を可能にする、Dolby Digital Surround EX ソフト対応の Dolby Digital EX デコーダーを内蔵しています（サラウンドバックチャンネルはサラウンド左とサラウンド右チャンネルから作られます）。Dolby Digital Surround EX で録音された映画のサウンドトラックを再生する際に、最良の音声を再生できます。この追加チャンネルにより、特に飛び越えたり飛び回ったりといった動きのあるシーンで、よりダイナミックでリアルな動作音をお楽しみいただけます。

■ Dolby Digital Plus

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスクや、デジタルテレビ放送向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。

■ Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。
従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ Dolby Pro Logic IIx

ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声をも信号処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード（2 チャンネル信号入力時のみ）、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

■ Dolby TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SA-CD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子経由で DSD の送受信が行えます。

■ DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

■ DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

■ DTS Express

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワーク・ストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

■ DTS-HD High Resolution Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大7.1チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

■ DTS-HD Master Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

■ DTS Neo:6

2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

■ HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。

■ LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital と DTS、AAC で、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1 と表現されます。

■ PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

■ x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

音場プログラム解説

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3 や AAC など、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマ DSP

サラウンド L/R スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド L/R スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント L/R スピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

HDMI 信号について

■ 音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SA-CD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル入力端子を接続すれば、音声解説を楽しめます。
- 再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いの DVD プレーヤーによっては、コピープロテクトがかかった DVD オーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクなどの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

主な仕様

オーディオ部
定格出力（6Ω、1kHz、0.9% THD）
　フロント左／右............................90W + 90W
　センター 90W
　サラウンド左／右.........................90W + 90W
　サラウンドバック左／右.............90W + 90W
ダイナミックパワー（6Ω ／ 4 Ω ／ 2 Ω）
　フロント左／右.............100 ／ 110 ／ 125W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント左／右....................... 115W + 115W
　センター 115W
　サラウンド左／右.................. 115W + 115W
　サラウンドバック左／右....... 115W + 115W
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
　AV5 他................................. 200mV ／ 47kΩ
最大許容入力
　AV5 他（1kHz、0.5% THD）........2.0V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
　AUDIO OUT....................... 200mV ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER（2 チャンネル ステレオ＆
　FRONT SP 設定 SMALL）......... 1V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
　AV5 他（1kHz、50mV 入力、8Ω）
　...100mV ／ 470Ω
周波数特性
　AV5 他、フロント（10Hz ～ 100kHz）
　...0 ／－ 3dB
全高調波歪率
　AV5 他（Pure Direct）～フロント SP OUT
　（1kHz、50W ／ 6Ω）..................0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　AV5 他（EFFECT OFF、250mV、SP OUT）
　.. 100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント左／右、SP OUT.......... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　AV5 他（5.1kΩ）....60dB 以上／ 45dB 以上
音量可変範囲／ステップ .... MUTE ／
　－ 80.0dB ～＋ 16.5dB ／ 0.5dB ステップ
トーンコントロール特性
　BASS（可変幅）
　..± 10dB ／ 50Hz
　BASS（ターンオーバー周波数）...........350Hz
　TREBLE（可変幅）
　..± 10dB ／ 20Hz
　TREBLE（ターンオーバー周波数）...... 3.5kHz
フィルター特性（fc ＝ 40 ／ 60 ／ 80 ／ 90 ／
100 ／ 110 ／ 120 ／ 160 ／ 200Hz）
　H.P.F（フロント、センター、サラウンド、
　サラウンドバック　小）................12dB ／ oct.
　L.P.F（サブウーファー）.............24dB ／ oct.

ビデオ部
ビデオ信号方式
グレーバック ....NTSC
　ビデオコンバージョン.................NTSC ／ PAL
　コンポジットビデオ信号レベル
　.. 1Vp-p ／ 75Ω
コンポーネントビデオ信号レベル
D4 ビデオ信号レベル
　Y .... 1Vp-p ／ 75Ω
　CB、CR.................................0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力........................... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比..50dB 以上
モニターアウト周波数帯域
　コンポーネントビデオ
　................................. 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB
　D4 ビデオ .... 5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部
受信周波数範囲................. 76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
　モノ.. 3μV（20.8dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ .... 74dB ／ 69dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ .... 0.3%／ 0.3%
アンテナ入力 ....75Ω、アンバランス

AM チューナー部
受信周波数 ....531kHz ～ 1611kHz

総合
電源電圧 ....AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力 175W
HDMIコントロール機能＝オフ/Standby Through
機能＝オフ ....0.2W 以下
HDMIコントロール機能＝オン/Standby Through
機能＝オン ....3W 以下
寸法（幅×高さ×奥行き）
.... 435 × 151 × 364mm
質量...8.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。



音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

O

P

R

S

T

V

Y

数字

「Ⓐ**STANDBY/ON**」や「6 **POWER**」（例）は、フロントパネルまたはリモコンキーなどの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、別紙「操作パネル図」、または各部の名称と機能をご覧ください。（8 ページ）

付録

リモコンコード一覧

テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa	0028, 0297
Epson	0156, 0201, 0309
Fujitsu	0023, 0024, 0025, 0105, 0328
Funai	0033, 0034, 0035, 0036, 0037, 0097, 0104, 0105, 0225, 0259
Hitachi	0006, 0014, 0015, 0016, 0042, 0072, 0090, 0094, 0173, 0254, 0255, 0256, 0260, 0264, 0265, 0266, 0274, 0285, 0300, 0319, 0328, 0348, 0349, 0385, 0402, 0410
LG	0016, 0038, 0039, 0077, 0103, 0145, 0222, 0243, 0246, 0253, 0260, 0261, 0264, 0268, 0271, 0273, 0274, 0282, 0290, 0299, 0316, 0327, 0328, 0351, 0359, 0367, 0382, 0384, 0389, 0396
Mitsubishi	0006, 0015, 0016, 0048, 0072, 0077, 0090, 0103, 0196, 0224, 0257, 0266, 0268, 0274, 0298, 0371
NEC	0026, 0053, 0072, 0090, 0096, 0102, 0103, 0266, 0328
Orion	0121, 0192, 0261, 0268, 0271, 0273, 0274, 0282, 0329
Panasonic	0006, 0007, 0066, 0067, 0068, 0069, 0070, 0102, 0106, 0113, 0147, 0215, 0241, 0265, 0274, 0279, 0310, 0332, 0334, 0368, 0374
Pioneer	0012, 0013, 0072, 0090, 0243, 0265, 0267, 0268, 0271, 0274, 0408
Samsung	0029, 0030, 0031, 0032, 0044, 0045, 0046, 0047, 0072, 0077, 0084, 0085, 0086, 0087, 0090, 0094, 0096, 0103, 0118, 0217, 0229, 0235, 0236, 0237, 0243, 0259, 0260, 0261, 0268, 0269, 0271, 0273, 0274, 0284, 0295, 0327, 0328, 0336, 0346, 0390, 0407
Sanyo	0020, 0021, 0022, 0049, 0065, 0090, 0141, 0191, 0243, 0250, 0260, 0266, 0273, 0291, 0327, 0328, 0370, 0373, 0391
Sharp	0009, 0010, 0011, 0072, 0080, 0081, 0082, 0083, 0085, 0090, 0094, 0110, 0148, 0183, 0216, 0224, 0247, 0248, 0258, 0266, 0288, 0304, 0324, 0325, 0340, 0358, 0362, 0369, 0386, 0392, 0398, 0400, 0401, 0403
Sony	0041, 0057, 0058, 0059, 0060, 0101, 0116, 0125, 0126, 0127, 0142, 0169, 0170, 0171, 0172, 0174, 0234, 0261, 0266, 0276, 0289, 0292, 0393, 0411
Toshiba	0027, 0043, 0053, 0054, 0061, 0062, 0063, 0064, 0065, 0122, 0123, 0124, 0128, 0130, 0132, 0139, 0214, 0244, 0266, 0283, 0305, 0328, 0329, 0342, 0350, 0352, 0353, 0354, 0375, 0404
Victor	0017, 0018, 0019, 0092, 0093, 0094, 0106, 0251, 0252, 0266, 0268, 0293, 0360, 0379
Yamaha	0000, 0001, 0002, 0003, 0004, 0005, 0072, 0090, 0096, 0103

VTR

Aiwa	1023, 1072, 1073, 1074
Funai	1023, 1072
Hitachi	1072, 1073, 1078, 1089, 1108, 1124
LG	1021, 1053, 1072, 1077, 1088, 1100, 1106, 1125, 1143
Mitsubishi	1029, 1072, 1078
NEC	1018, 1019, 1073
Orion	1033, 1069, 1074, 1097, 1139
Panasonic	1007, 1008, 1009, 1022, 1026, 1042, 1043, 1068, 1082, 1101, 1126, 1132
Samsung	1006, 1020, 1038, 1040, 1046, 1060, 1080, 1107, 1110, 1112, 1121, 1123, 1140, 1142
Sanyo	1019, 1020, 1114
Sharp	1031, 1045, 1057, 1081, 1115, 1137
Sony	1000, 1001, 1002, 1003, 1024, 1027, 1036, 1062, 1066, 1083, 1098, 1103, 1138
Toshiba	1004, 1005, 1034, 1051, 1063, 1066, 1073, 1078, 1086, 1099, 1102, 1119, 1144
Victor	1011, 1012, 1013, 1014, 1015, 1016, 1017, 1018, 1019, 1028, 1035, 1064, 1073, 1085, 1117, 1130, 1131, 1133, 1134, 1135, 1136

DVD プレーヤー

Denon	2105, 2147, 2197, 2286
Hitachi	2008, 2033, 2108, 2302, 2309, 2320, 2366
LG	2080, 2107, 2115, 2116, 2141, 2188, 2211, 2215, 2237, 2239, 2285, 2293, 2295, 2348, 2370
Marantz	2282
Onkyo	2205, 2290
Orion	2027, 2060
Panasonic	2015, 2016, 2017, 2036, 2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2074, 2089, 2104, 2108, 2112, 2120, 2131, 2132, 2197, 2205, 2244, 2245, 2246, 2253, 2254, 2255, 2292, 2321, 2324, 2327, 2328, 2329, 2331, 2383, 2388
Pioneer	2012, 2013, 2014, 2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2113, 2134, 2207, 2230, 2236, 2265, 2266, 2267, 2297, 2322, 2351, 2352, 2353, 2354, 2355, 2356, 2357, 2358, 2359, 2377
Samsung	2031, 2032, 2033, 2034, 2035, 2082, 2127, 2137, 2138, 2154, 2182, 2197, 2283, 2319, 2325, 2346, 2347, 2349, 2372, 2381
Sanyo	2139, 2195, 2212, 2374
Sharp	2009, 2010, 2084, 2122, 2142, 2143, 2144, 2181, 2190, 2228, 2262, 2375
Sony	2005, 2006, 2007, 2020, 2021, 2022, 2023, 2024, 2025, 2069, 2072, 2073, 2085, 2086, 2087, 2091, 2092, 2093, 2102, 2128, 2129, 2130, 2249, 2250, 2323, 2334, 2335, 2336, 2360, 2361, 2362, 2363, 2364, 2365, 2384
Toshiba	2004, 2026, 2027, 2028, 2029, 2030, 2098, 2099, 2100, 2101, 2114, 2117, 2118, 2119, 2136, 2187, 2195, 2205, 2291, 2337, 2338, 2378
Victor	2049, 2050, 2051, 2052, 2053, 2054, 2055, 2056, 2057, 2070, 2242, 2261, 2275, 2276, 2277, 2278, 2339, 2340, 2341, 2342, 2386, 2387, 2389, 2390, 2391
Yamaha	2000, 2001, 2002, 2003, 2011, 2018, 2019, 2036, 2106, 2197, 2273

Blu-ray プレーヤー / レコーダー

LG	2115
Panasonic	2089, 2131, 2132
Pioneer	2134
Samsung	2035, 2127
Sharp	2142, 2143, 2144
Sony	2025
Yamaha	2018

DVD レコーダー

Hitachi	2108
LG	2107, 2115, 2141, 2188
Panasonic	2037, 2038, 2039, 2040, 2041, 2042, 2043, 2089, 2104, 2108, 2112
Pioneer	2063, 2064, 2065, 2066, 2067, 2113
Sanyo	2139
Sony	2022, 2023, 2024, 2085, 2086, 2087, 2102, 2128, 2129, 2130
Toshiba	2030, 2099, 2100, 2101, 2114, 2117, 2118, 2119
Victor	2054, 2055, 2056, 2057

ケーブルテレビチューナー

Panasonic	3034, 3036, 3040
Pioneer	3012, 3032, 3038, 3042, 3048, 3083, 3084
Samsung	3011, 3023, 3032, 3042
Sony	3014, 3047

衛星放送チューナー

Humax	4051, 4075, 4076, 4110
Panasonic	4043, 4044, 4046, 4084, 4113, 4118, 4143, 4148
Pioneer	4124, 4135
Sony	4017, 4020, 4135
Toshiba	4144, 4152, 4153

CD プレーヤー

Yamaha	5000, 5013

CD レコーダー

Yamaha	5001

MD プレーヤー

Yamaha	5002, 5003, 5004

テープデッキ

Yamaha	5005, 5006

チューナー

Yamaha	5007, 5008, 5009, 5010, 5014, 5015, 5016, 5017, 5018

USB

Yamaha	5012, 5021

DOCK

Yamaha	5011, 5022

LD プレーヤー

Yamaha	2002

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

本機の設置や設定、操作に関するお問い合わせ

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10：00～18：00　土曜日 10：00～17：00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受付：月～金曜日 9：00～19：00　土曜日 9：00～17：30
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9：00～17：45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松　〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋　〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪　〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

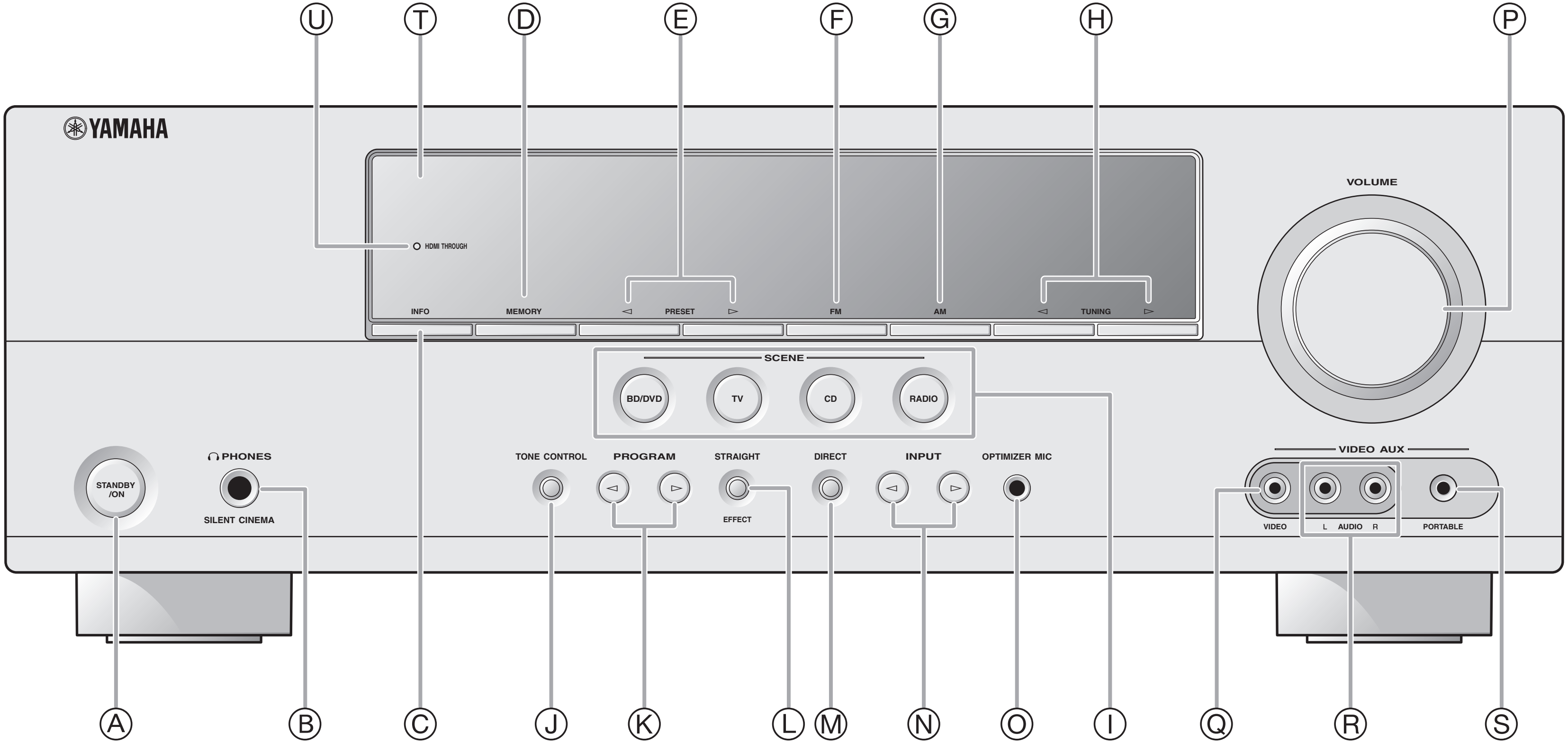
ヤマハ株式会社

Printed in China WQ95450

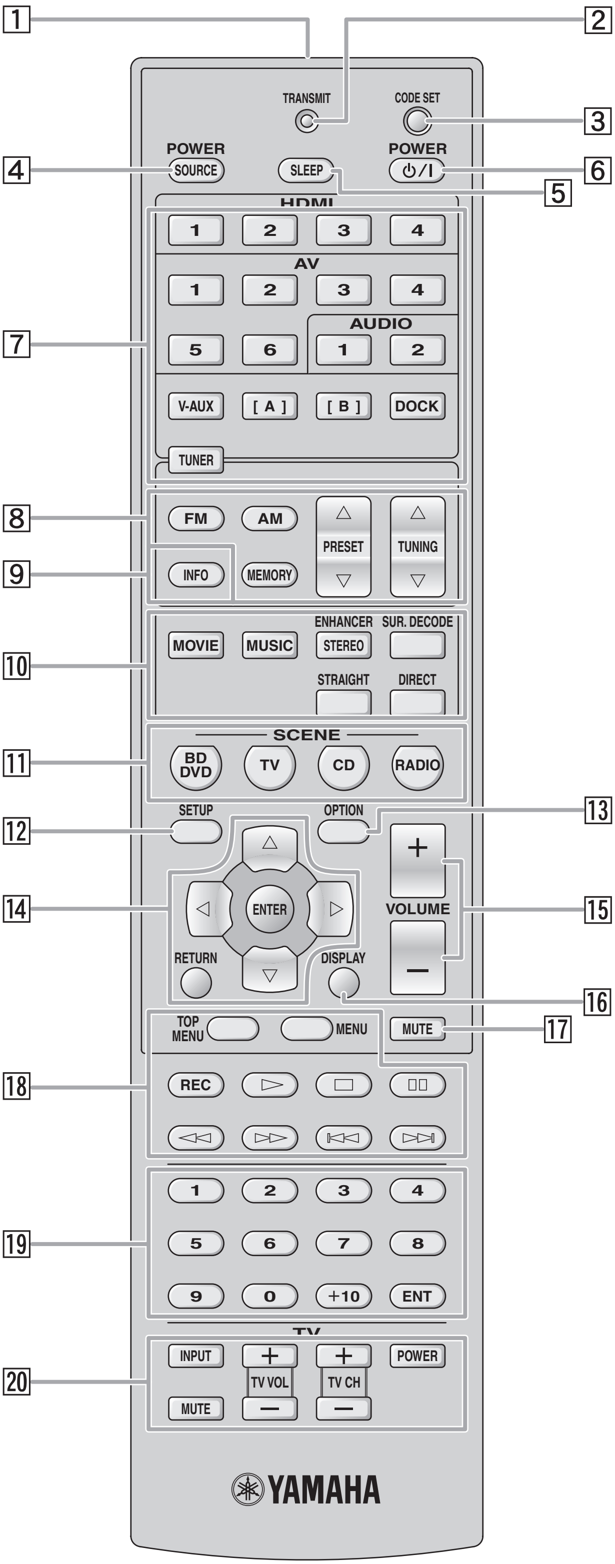
AX-V565/V465 操作パネル図

イラストに記載されている数字やアルファベットは、取扱説明書中のキーなどに付記されている数字やアルファベットに対応しています。

■ フロントパネル



■ リモコン



PRINTED WITH SOY INK
YAMAHA CORPORATION
Printed in China WQ95550

ヤマハ株式会社

Printed in China WT92470

追加機能のおしらせ

入力ソースとして AV3、AV4、AUDIO1、AUDIO2 のいずれかを選択した場合、HDMI1-4 や AV1-6、V-AUX に接続された外部機器の映像をテレビへ表示できます。この機能を利用すれば、以下のような機器を接続できます。

例 1： ビデオ出力が D 端子、音声出力がアナログ音声の出力端子を持つ外部機器（ゲーム機など）
例 2： HDMI 端子を使って音声出力が行えない外部機器（衛星放送チューナーなど）

使用する際には、次の接続および設定を行います。

Part 1： 外部機器を接続する
Part 2： ビデオ入力端子を選択する

Part 1：外部機器を接続する

- **外部機器の HDMI 端子：**外部機器の音声出力タイプ（アナログまたはデジタル）に応じて、本機の HDMI 入力端子へ適切に接続します。詳しくは以下の説明をご覧ください。
- **外部機器の音声出力端子：**本機の AV3-4 または AUDIO1-2 の音声入力端子に接続します。
- **外部機器の映像出力端子：**本機の AV1-6 または VIDEO AUX の映像入力端子に接続します。

ご注意

- 外部機器との接続は、本機の電源プラグをコンセントからはずしてから行ってください。

■ HDMI 端子と音声入力端子の接続

接続する外部機器の出力端子	本機の対応入力ソース / 端子		接続が可能な HDMI 入力端子
アナログ音声出力	AUDIO1	AUDIO	HDMI1
	AUDIO2	AUDIO	HDMI2
同軸デジタル音声出力	AV3（CD）	COAXIAL	HDMI3
光デジタル音声出力	AV4	OPTICAL	HDMI4

■ オーディオ端子の接続

接続する外部機器の出力端子	本機の対応入力ソース / 端子	
同軸デジタル音声出力	AV3（CD）	COAXIAL
光デジタル音声出力	AV4	OPTICAL
アナログ音声出力	AUDIO1	AUDIO
	AUDIO2	AUDIO

■ ビデオ端子の接続

接続する外部機器の出力端子	本機の端子	
コンポーネント / D 端子	AV1（TV）	COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO
	AV2	COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO
ビデオアウト	AV3（CD）	VIDEO
	AV4	VIDEO
	AV5	VIDEO
	AV6	VIDEO
	VIDEO AUX（フロントパネル）	VIDEO

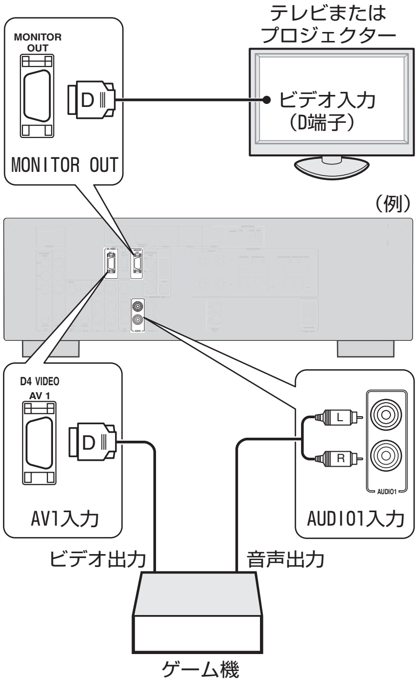
ご注意

- 本機とテレビをアナログ方式のビデオ（コンポーネント /D 端子またはビデオ端子）で接続している場合は、外部機器と本機の接続も同じ種類の映像端子で接続してください。

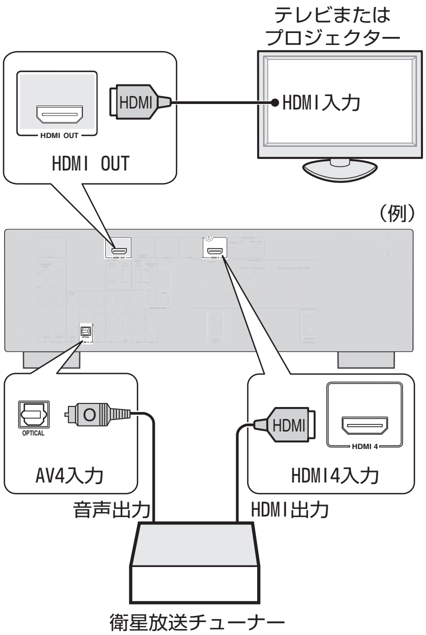
裏面へ続く

接続例

例 1：ゲーム機を接続する場合



例 2：衛星放送チューナーを接続する場合



Part 2：ビデオ入力端子を選択する

1 本機の電源をオンにする。

2 リモコンの AV3-4 または AUDIO1-2 を押して、外部機器を接続した入力ソースを選択する。

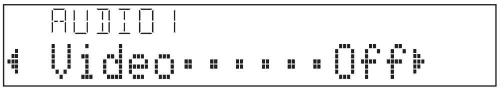
ここでは、外部機器の音声出力端子を接続した入力ソースを選択します。

たとえば例 1 の接続を行った場合、**AUDIO1** を押します。

3 リモコンの OPTION を押す。

オプションメニューが表示されます。

4 リモコンのカーソル △ / ▽ を押して「Video Out」を選択し、ENTER を押す。

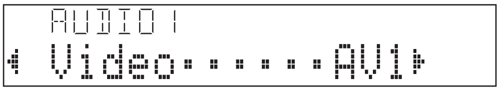


5 カーソル ◁ / ▷ を押して、映像入力ソースとして使用する端子を下記の中から選択する。

- HDMI1-4*
- AV1-2（COMPONENT VIDEO または D4 VIDEO）
- AV3-6（VIDEO）
- V-AUX（VIDEO）
- Off（映像入力なし）

* 使用できる HDMI 端子は手順 2 で選んだ入力ソースに応じて異なります。詳しくは表面をご覧ください。

たとえば例 1 の接続を行った場合、「AV1」を選択します。



6 設定を終了するには、OPTION を押す。